

二 換地を交付せず清算金を交付したるもの

権利者	區町丁目	地番	地目	權利別	面積	指數	價格	摘	要
田中舜作	本所區 表町	六二ノ六	道路	所有權	一四・六 <sup>坪</sup>	四三	二三・六 <sup>円</sup>	私道として使用せ るもの	
延命寺	同 中ノ郷八軒町	三一	宅地	同	九九〇	四、三九	一、三三・三	本人の申出による	
成就寺	同 中ノ郷竹町	二九ノ四	同	同	〇・五	三六七	一〇八・六	面積小にして一筆 換地として不適當 なるによる	
同	同	二九ノ三	同	同	五・六	三、〇六三	八七・六	同	
尾内庄吉	同	二九ノ三	同	賃借權	一・六	三九	八九・三	同	
同	同	二九ノ四	同	同	〇・五	一六	四六・四	同	
吉澤秋之助	本所區 北新町	八二	同	同	一八・〇	一、八五六	五九・六	權利者との協定に 依る	
關口龜太郎	同 中ノ郷竹町	二九ノ三	同	同	四〇〇	九三	二七八・〇	本人の申出による	
合計				所有權 賃借權	三〇・九 二四・四	八、三三 三、三四	二、〇一・八 九三・五		

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

民有地道路二筆五十五坪一合七勺、東京市所有地道路百二十筆四千八百十六坪九合五勺、河岸

地二筆六十二坪六合七勺、内務省所有地泥揚地一筆二十四坪、道路三十五筆千六百四十一坪七合四勺合計六千六百五合三勺。

潰地充當用買收地東京市所有地四筆五百七十五坪二合五勺、内務省所有地二十四筆八千四十八坪五合四勺、合計八千六百二十三坪七合九勺。

三 所有權以外の權利又は處分の制限の指定を爲したるもの

一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權假登記八件、抵當權三百三十件、抵當權假登記十件、賃借權一件、賃借權假登記二十七件あり。

二 處分の制限の指定を爲したるもの假處分一件、所有權假登記二十九件、假差押一件、競賣申



吉澤秋之助	本所區 北新町	八二	同	同	一、八五〇	一、八五六	五九・六	權利者との協定に 依る
關口龜太郎	同 中ノ郷竹町	二九ノ三	同	同	四〇〇	九三三	二七八・〇四	本人の申出による
合計				所有權 賃借權	三〇、〇〇〇 三、三三四	八、三三一 三、三三四	二、三〇一・八 九三三・五	

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

民有地道路二筆五十五坪一合七勺、東京市所有地道路百二十筆四千八百十六坪九合五勺、河岸

地二筆六十二坪六合七勺、内務省所有地泥揚地一筆二十四坪、道路三十五筆千六百四十一坪七合四勺合計六千六百五合三勺。

潰地充當用買收地東京市所有地四筆五百七十五坪二合五勺、内務省所有地二十四筆八千四十八坪五合四勺、合計八千六百二十三坪七合九勺。

### 三 所有權以外の權利又は處分の制限の指定を爲したるもの

一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權假登記八件、抵當權三百三十件、抵當權假登記十件、賃借權一件、賃借權假登記二十七件あり。

二 處分の制限の指定を爲したるもの假處分一件、所有權假登記二十九件、假差押一件、競賣申立九件、豫告登記一件、工場財團一件あり。

三 未登記の所有權以外の指定を爲したるもの賃借權二千五十二件あり。  
備考 右の外係争中の賃借權二十七件、借地法第六條該當地百三十三件、同法第九條該當地八件あり。

## 第二節 清算金

### 第一 土地補償を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和五年一月二十三日内務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は四十一萬三千二百四十四圓四十四錢にして人員千三人なり、又土地補償金は同年二月十三日補償審査會に於て八十七萬二千八百四十六圓八十錢人員千四百四十一人と決定せられ同月十七日其の通知を受けたり、依て同月二十四日左記の通補償金を以て徴收清算金に充當處分を爲したり。



徵收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徵收清算金		充當後交付補償金	
金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員
四三、四四・四四 <sup>円</sup>	一、〇〇三	八七、八四六・八〇 <sup>円</sup>	一、一四二	二七、〇〇〇・八〇 <sup>円</sup>	九九九	一四、九三三・六四 <sup>円</sup>	五〇〇	六〇、一五四六・〇〇 <sup>円</sup>	一、五〇一

### 第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、前項充當處分を爲したる後直ちに之が送達に著手し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

### 第三 清算金の徵收

本地區に於ける徵收清算金總額は四十一萬三千二百四十四圓四十四錢なりしが、内二十七萬三百圓八十錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徵收すべき清算金は、差引十四萬二千九百四十三圓六十四錢にして人員五百二十人なり。

右徵收人員五百二十人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの百六十三人に對し分納申請期限を昭和五年三月十五日とし、同年二月二十四日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの七十人にして資格者總數に對し僅に四割三分に過ぎざりしを以て、同年三月二十日未提出者九十三人に對し更に同月三十一日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に提出したるもの三十人ありて結局申請者合計百人となり、資格者總數に對し六割一分となりたり。

依て右申請書を審査の上、昭和五年五月八日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送

付せり。

本地區に於ける清算金徵收事務は本所區役所に於て取扱ふものにして、昭和五年三月より之が徵收を開始せり。

### 第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は四十一萬三千二百四十四圓四十四錢にして昭和五年三月十日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額四十萬四千二十七圓九十六錢なり。



右徴収人員五百二十人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの百六十三人に對し分納申請期限を昭和五年三月十五日とし、同年二月二十四日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの七十人にして資格者總數に對し僅に四割三分に過ぎざりしを以て、同年三月二十日未提出者九十三人に對し更に同月三十一日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に提出したるもの三十人ありて結局申請者合計百人となり、資格者總數に對し六割一分となりたり。

依て右申請書を審査の上、昭和五年五月八日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。

本地區に於ける清算金徴収事務は本所區役所に於て取扱ふものにして、昭和五年三月より之が徴収を開始せり。

#### 第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は四十一萬三千二百四十四圓四十四錢にして昭和五年三月十日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額四十萬四千二十七圓九十六錢なり。

### 第六章 土地補償金

#### 第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割八分八厘一四四二なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路敷充當用として國に於て買收したる土地及小公園充當用として市に於て買收したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を各整理前の權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり。

次で前記配當割合に基き左表其の一に依り計算したる補償總指數を整理前各權利に配當して原案を作成の上、昭和五年一月三十日補償審査會に提出し、同年二月十三日原案の通決定せられ同月十七日其の旨通知を受けたり。

而して要交付補償金總額は八十七萬二千八百四十六圓八十錢にして人員千四百四十一人なり。







整理前宅地坪當價格	一二九圓九二
補償總指數	六、八六四、九七七個
補償金額	一、九二二、一九三圓五六

(其の二)

摘要	員數
----	----

特別都市計畫法施行令 第二十九條該當中指數 相當額配當のもの	面整理前指數積		補償金額	特別都市計畫法施行令 第二十九條該當中指數 相當額配當のもの	面整理前指數積		補償金額
	補償指數	積			補償指數	積	
八、六一三坪七九	三、五九七、四三一	個	三、五九七、四三一	八、六一三坪七九	三、五九七、四三一	個	三、五九七、四三一
一、〇〇七、二八〇圓六八	七四、二六四、三一五	個	七四、二六四、三一五	一、〇〇七、二八〇圓六八	七四、二六四、三一五	個	七四、二六四、三一五
三、二六七、五四六個	四三、九九八、七九八	個	四三、九九八、七九八	三、二六七、五四六個	四三、九九八、七九八	個	四三、九九八、七九八
一〇、三三八坪四九	三、三三〇、一六四	個	三、三三〇、一六四	一〇、三三八坪四九	三、三三〇、一六四	個	三、三三〇、一六四
一四六、五二三個	四一、〇二六圓四四	個	四一、〇二六圓四四	一四六、五二三個	四一、〇二六圓四四	個	四一、〇二六圓四四
八七二、八四六圓八〇			八七二、八四六圓八〇	八七二、八四六圓八〇			八七二、八四六圓八〇

第二 補償金國市負擔區分

本地區に於ける補償金國市負擔區分に關する計算は左記調査表の如く、國に於て三十一萬六千五百六十九圓十二錢(人員千百三十八人市に於て五十五萬六千二百七十七圓六十八錢(人員三百三人)を負擔するものなり。

第四十四地區 甲 整地







總計	市負擔										
	計		補助線		小公園		補助線の 業用地 内電氣事				
一四,七五五・二	四,八五一・五三		三,四九六・二二		五七四・九三		七八〇・元		九,九四三・六		
一九三,一三三・五	六,八四四・九七七	六三〇,三三〇・五三	二,三三二・一〇三	四五四,三三七・四八	一,六三二,二四二	七四,六九四・七六	二六六,七七七	一〇二,三六六・元	一,二九二,八八三・〇四	四,六三三,八六六	
四,一〇一,四〇四	一四六,五三三	一三,四三三・一六	四八,〇四七	九,六九四・七二	三四,六四	一,五九四・三二	五,六九四	二,二六四・二二	七,七元	二七,五三三・二八	九,四七六
一,〇〇七,一六〇・六六	三,五九七,四三二	六〇,五九六・六	二六,三三六	—	—	六〇,五九六・六	二六,三三六	—	—	九四六,七〇〇・〇〇	三,三八二,〇七五
一,四八,三〇七・二二	三,七四三,九五四	七四,〇三三・八四	二六四,四〇四	九,六九四・七二	三四,六四	六二,一七四・〇〇	二二,一〇五	二,一六四・二二	七,七元	九四,二七四・二八	三,四七九,五三一
八七三,八四六・八〇	三,二二七,三二〇	五五六,二七七・六	一,九八六,七〇三	四四,五三二・七六	一,五六七,六一七	二二,五〇・七六	四四,七二七	九九,三四・二六	五五四,三三二	三六,五六九・三二	一,一三〇,八四四

國負擔	幹線	
	寺院的讓 與を受け たる土地 の割放	棄額
	九,九四三・六八 <sup>坪</sup>	
	四,六三三,八六六 <sup>個</sup>	一,二九二,八八三・〇四 <sup>円</sup>
	九,四七六 <sup>個</sup>	二七,五三三・二八 <sup>円</sup>
	三,三八二,〇七五 <sup>個</sup>	九四六,七〇〇・〇〇 <sup>円</sup>
	三,四七九,五三一 <sup>個</sup>	九七四,二七四・二八 <sup>円</sup>
△ 一,〇三九・六四		三七,六〇八・七六 <sup>円</sup>
	三,七二二	



第三 各權利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金總額は八十七萬二千八百四十六圓八十錢なりしが、内二十七萬三百圓八十錢を徵收清算金に充當したる結果、各權利者に直接交付すべき補償金は六十萬二千五百四十六圓(人員千六百八十一人)にして、之が國負擔區分に依る内譯左表の如し。

區分	補償金決定額		充當額		直接交付額	
	金額	人員	金額	人員	金額	人員
國負擔	三六、五九・三 <sup>甲</sup>	一、二六	一〇、一三・七 <sup>甲</sup>	八〇	三四、三三・六 <sup>甲</sup>	一、二七
市負擔	五五、二七・六	三〇三	一六、〇八・四	一八	三八、一八・六 <sup>四</sup>	一七四
計	八三、八六・九	一、四四	二六、二二・一 <sup>〇</sup>	九八	六二、五二・二 <sup>〇</sup>	一、四四

第四 補償金の交付

本地區に於ける市負擔補償金總額五十五萬六千二百七十七圓六十八錢中、徵收清算金に充當したる金額十六萬八千八百九十四圓四錢は、市會計規程に基き振替手續に依り昭和五年三月三十一日支出し、直接交付額三十八萬八千八百八十四圓四錢は、昭和五年二月二十五日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額三十七萬七千五百九十九圓七十六錢にして、交付濟額合計五十四萬五千四百四十八圓八十錢なり。

國負擔補償金總額三十一萬六千五百六十九圓十二錢中、徵收清算金に充當したる金額十萬二千二百一十一圓七十六錢は、同五年三月三十一日本所區役所に納付し、直接交付額二十一萬四千三百五十七圓三十六錢は同五年三月之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額二十一萬四千三百五十七圓三十六錢にして、交付濟額合計三十一萬六千五百六十二圓十二錢なり。

第七章 登記及地價配賦

第一節 登記

第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は土地表示更正及變更六十四件、土地名義人表示更正及變更四十四件、土地分合筆二百四十四件、家督相續十四件なり。



付額三十八萬八千八百八十八圓六十四錢は、昭和五年二月二十五日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額三十七萬七千五百九十九圓七十六錢にして、交付済額合計五十四萬五千四百四十八圓八十錢なり。

國負擔補償金總額三十一萬六千五百六十九圓十二錢中、徴收清算金に充當したる金額十萬二千二百一十一圓七十六錢は、同五年三月三十一日本所區役所に納付し、直接交付額二十一萬四千三百五十七圓三十六錢は同五年三月之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額二十一萬四千三百五十七圓三十六錢にして、交付済額合計三十一萬六千五百六十二圓十二錢なり。

## 第七章 登記及地價配賦

### 第一節 登記

#### 第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は土地表示更正及變更六十四件、土地名義人表示更正及變更四十四件、土地分合筆二百四十四件、家督相續十四件なり。

#### 第二 區劃整理登記

土地囑託筆數は整理前八百四十九筆整理後九百二十七筆にして、建物囑託件數は要登記のもの千四百七十九件、現存を認め難きもの三十件なり、囑託書を東京區裁判所林町出張所に提出したるは昭和五年六月九日にして、登記の完了は昭和五年八月十四日なり、而して登記の停止期間は換地處分告示の日即ち昭和五年一月二十三日より約二箇月に亘れり。

### 第二節 地價配賦

#### 第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を兩國橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

- |              |            |
|--------------|------------|
| 一 土地區劃整理施行申告 | 昭和三年三月十四日  |
| 一 工事著手届      | 同 日        |
| 一 工事完了届      | 昭和五年一月二十五日 |

第四十四地區 甲 整地



第二 地價配賦

地價配賦案は昭和五年六月十四日之を作成し、六月十五日兩國橋稅務署長に提出し、同年七月十八日地價配賦許可の指令を受けたり。

本地區整理前有租地の地價總額は九十二萬七千二百五十圓三十錢にして、整理に依り減少したる有租地面積に對する控除地價額は十四萬六千五百四十一圓七十七錢なり、之を前述の地價總額九十二萬七千二百五十圓三十錢より控除したる七十八萬七百八圓五十三錢は、即ち整理後有租地に對し配賦せらるべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は十二圓十九錢五四七なり。

一 整理前後有租地面積

整理前面積	整理後面積	差引減步面積
一四八、一〇九・八六 <sup>坪</sup>	二四、七〇四・七 <sup>坪</sup>	一三、四〇五・四九 <sup>坪</sup>

二 整理前有租地坪當平均地價

整理前面積有	同上總地價	坪當平均地價
一四八、一〇九・八六 <sup>坪</sup>	九七、一五〇・三〇 <sup>円</sup>	六・六一 <sup>円</sup>

三 控除せらるべき地價

有租地差引減步面積	坪當平均地價	控除地價
一三、四〇五・四九 <sup>坪</sup>	六・六一 <sup>円</sup>	一四六、五四一・七七 <sup>円</sup>

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

整理後有租地總指數	配賦地價額	指數千個當配賦地價額
六四、〇二、一三〇 <sup>個</sup>	七八〇、七八・五三 <sup>円</sup>	一二・一九五四四六七 <sup>円</sup>

次に整理前後の土地を有租地、免租地及公共用地の區分に従ひ地目別に掲記すれば左の如し。

整理前後土地面積及筆數調

區分	地目	從前の土地		整理後の土地		面積差引		筆數差引	
		臺帳面積	筆數	實測面積	筆數	増	減	増	減
有租地	宅地	一四、二五・三三 <sup>坪</sup> 外道路 一七・七九	八二	二四、七四・三七 <sup>坪</sup>	九四	一〇、五八・七四 <sup>坪</sup>	一七三		
	墓地	二、八九・三三	一八	一、〇五・八一	一〇	一、五三・五			
民有免租地	道路	三、五・三三	八			三、五・三三			





三 控除せらるべき地價

有租地 減歩面 積引	坪 一三、四〇五・四九	坪 六・六一	坪 一四六、四一・七七
坪 平均地價			
控除地價			

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

整理後有租 地總指數	個 六四、〇二、三〇	坪 七八〇、七八・五三	坪 三・一九四五四六七
配賦地價額			
指數千個當 配賦地價額			

次に整理前後の土地を有租地、免租地及公共用地の區分に從ひ地目別に掲記すれば左の如し。  
整理前後土地面積及筆數調

區分	地目	從前の土地		整理後の土地		面積差引		筆數差引	
		臺帳面積	筆數	實測面積	筆數	增	減	增	減
有租地	宅地	一四、二五・三三 外道路 一七・七九	八二	二四、七四・三七	九九	坪 	坪 二〇、五八・七四	二七	
	墓地	二、八九・七三	一八	一、〇五・八一	〇		坪 一、五三・五		八
民有免租地	計	三、二四・七	二六	一、一〇・八一	〇		坪 一、九八・九二		二六
	道路	三五・五	八	三五・五	一		坪 三五・五		八
市有免租地	社會事業用地	四五・〇〇	一	四一・〇三	一		坪 三・九七		
	工業用地	一、四六・〇〇	三	一、三四・四	二		坪 六〇・五		
	下水敷地	三三・八一	一	三三・八一	一	〇・〇			
	學用地	三、六一・九七	一六	三、七四・九三	三		坪 二八七・〇四		一七
	河岸地			一七・六	一	坪 一四七・六			
	都市計畫第三十三條該當地	五七五・二五	四				坪 五七五・二五		四
	公園地	四、八八・〇三	二二				坪 四、八八・〇三		二二
	道路	一〇、八九・〇六	一四	五、三二・九	六	坪 一四七・七	坪 五、七四・八五	八	二六
	計	二、七七・四一	五	二、七二・三三	二		坪 五・〇八		三
	區有免租地	學敷地	四九・三三	二	四九・一六	二		坪 〇・一七	
府有免租地	警視廳用地								





合 計	公 共 用 地					國 有 免 租 地					
	計	物 共 揚 同 場	公 園	運 河 河 川	溝 渠	道 路	計	道 路	泥 揚 場	用 務 地 省	寺 地
外 道 路 三〇五、六四・九 一七二・九	三、四七・九			四、九六・六	一、九二・五	二四、六五・六	二、三二・四	一、六四・四	二四・〇〇	八、七〇・七	一、一五・〇〇
一、〇六							九	五	一	六	五
二〇八、八〇・七	七、一四九・五	七・九	五四・九	四、九六・七		六、五三・〇	二、四七・四			一、一四七・七	一、一〇〇・六
一、〇五							九			二	七
四、六四三・〇	四、四四・七	七・九	五四・九	〇・九		四、八四・八〇					
三九、六八・三	一、九二・五				一、九二・五		九、四四・三	一、六四・七	二四・〇〇	七、六〇・五	一四・七
一、九							二				二
二〇七							三	五	一	六	

## 乙 建物其他の工作物移轉

### 第一章 整理前の建物

#### 第一節 建物状況

本地區整理前の宅地總面積は十六萬七千八百五十二坪にして、之に所在する建物の總棟數は六千四百



## 乙 建物其の他の工作物移轉

### 第一章 整理前の建物

#### 第一節 建物狀況

本地區整理前の宅地總面積は十六萬七千八百五十二坪にして、之に所在する建物の總棟數は六千四百四十七棟此の延坪數八萬八千四百十六坪八合六勺なり、而して建物一棟當り宅地面積は二十六坪三勺、同建物延坪數は十三坪七合一勺なり。

前記總棟數の内移轉を要するもの六千三百四十六棟にして、爾餘の百一棟は換地の關係に依り其の儘据置得る不要移轉建物なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	建物總數		内		譯	
	棟數	延坪數	要移轉建物 棟數	延坪數	不要移轉建物 棟數	延坪數
木造建物	六、三三三	八三、九四・三三 <sup>坪</sup>	六、二六六	八、〇三・二五 <sup>坪</sup>	空	一、八五・一八 <sup>坪</sup>
石造平家建	八	七五・三三	七	四六・二七	一	二九・〇六
同 階建	一	一五・五	一	一五・五	一	一
煉瓦造平家建	三	九六・二三	三	一五・五	〇	八六・五八
同 階建	〇	九七・八六	三	二六・〇〇	七	九三・八六

第四十四地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第四十四地區 乙 建物其他の工作物移轉

建物總數に對する百分比	棟數	要移轉棟數に對する百分比	延坪數	一棟平均坪數
同 三階建	四	四〇六・二七		四〇六・二七
同 五階建	一	三二・〇〇		三二・〇〇
鐵骨造 平家建	三	八五・六七	四八・六二	三六七・〇五
鐵筋コンクリート造平家建	二	三〇・五〇		三〇・五〇
同 二階建	四	一、四八九・九九	一〇・九二	一、四七九・〇七
同 三階建	二	六五・二三		六五・二三
計	六、四七七	八八、四一六・八六	八一、七九〇・七	六、六六六・七九
建物總數に對する百分比	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	九八・四三	一・五七

要移轉建物の用途を大別すれば、住宅二千五百九棟の三割九分を最高とし、商店千五百九十六棟の二割五分に次ぎ、以下小工場、飲食店、倉庫等の順位なり、之を表示すれば左の如し。

種別	要移轉		建物	
	棟數	要移轉棟數に對する百分比	延坪數	一棟平均坪數
官署	三	〇・一九	六二・六五 <sup>坪</sup>	五・二三 <sup>坪</sup>
學校	八	〇・二三	八五・五〇	一〇八・一八
寺院	二五	〇・三九	五三・九四	二・三五
教會	八	〇・一三	一六三・一一	二〇・三六
祠宇	五	〇・〇八	一七・六六	三・五九

病醫院	二	〇・〇三	七・二二	三五・五六
醫務所	一元	〇・四六	五八・七四	一五・三三
住宅	六	一・〇四	一、三〇二・一四	一九・七二
旅舍	二、五〇九	三九・五四	二六、六七・三四	一〇・六〇
寄宿	二	〇・一七	五〇・九七	五・八一
旅舍	九	〇・一四	二六・二七	二九・一四



第四十四地區 乙 建物其他の工作物移轉

小工運理浴質武娛席飲料商木寄旅住事醫病	工	運	理	浴	質	武	娛	席	飲	料	商	木	寄	旅	住	事	醫	病
			髮				術											
		送	理				道		樂	食	理	賃	宿			務		
場	場	業	店	場	屋	場	場	亭	店	店	店	宿	舍	館	宅	所	院	院
一、〇九六	三三	八	六	九	四	二	五	三	一八四	二	一、五九六	六	九	二	二、五〇九	六	二	二
一七・二七	三・五〇	〇・二六	一・二九	〇・三〇	〇・〇六	〇・〇三	〇・〇八	〇・〇五	二・九〇	〇・〇三	一五・二五	一・二〇	〇・一四	〇・一七	三九・五四	一・〇四	〇・四六	〇・〇三
一四、三二・八二	五、〇四・六三	一八三・四九	九八・五九	八六五・〇四	九七・三六	九〇・二四	九一・二二	一五・九三	二、六七・五九	四三・五一	一九、七四・四七	二、四六・九四	二六二・二七	五八〇・九七	二六、六〇七・三四	一、三〇二・一四	五九八・七四	七・二二
一三・〇六	二三・九〇	一五・七四	一一・二〇	四五・五二	二四・三四	四五・〇七	一八・三三	五・九七	一四・五四	二・七五	二・三九	三・四九	一九・一四	五・八一	一〇・六〇	一九・七二	一五・三〇	三五・五六

祠教寺學官	會	公	署	棟	數	延	坪	數	一棟平均坪數
字	堂	院	校		五	八	二五	八	二
〇・〇八	〇・一三	〇・三九	〇・二三	〇・一九	一七・九六	一六三・二二	五三三・九四	八六五・五〇	六一・六五
三・五九	二〇・三八	一〇八・一八	二二・五五	五・二三	三・五九	二〇・三八	一〇八・一八	二二・五五	三一・五九



第四十四地區 乙 建物其の他の工作物移轉

倉庫	一七三	二七三	二、八六一・二七	一六・五三
自動車	四	〇・〇六	七〇・七五	九・四三
其他	一六	二・七七	九三・四	五・二五
計	六、三四六	100・00	八、七〇・〇七	三・八

四〇

第二節 地區告示後の建築

大正十三年三月二十七日東京都市計畫土地區劃整理施行地區の告示後に於て假設建築物として新築、改築、増築等の爲東京府知事に許可申請を爲したるもの建物二千百七棟、工作物十九件、内許可せられたるもの建物千四百九十一棟、工作物七件、許可せられざりしもの建物六百十六棟、工作物十二件なり、而して前記の如く不許可の指令を受けたるにも拘らず新築、改築、増築等を爲し事業施行の必要上移轉を要したるもの建物二百九十八棟、工作物六件なり。

第二章 移轉計畫

本地區は當初之を百五十箇の移轉群に分ち、第十五移轉群の一部は大正十四年七月より第四、第五移轉群の一部は大正十五年三月より、其の他の移轉群は昭和二年二月より建物及工作物の現狀調査に著手し、調査済の移轉群より逐次移轉工法並工程を定め、昭和三年二月移轉計畫の全部を終了せり。

然るに曩に第六十六地區に於て一旦整理を了したる向島小梅町及新小梅町の各一部は、隅田公園敷地擴張の關係に依り昭和四年三月九日新に本地區に編入せられ、再び整理を要することとなりたるを以て、更に一箇移轉群第五百五十二移轉群を追加し、之が現狀調査及移轉計畫は昭和四年七月終了したり。而して要移轉建物六千三百四十六棟に對する移轉工法を見るに曳方一部除却に依るもの二千八百八十三棟にして四割五分を占め、之に次ぐは移築一部除却の千五百十三棟にして二割三分に相當し、他は曳方、移築、据置一部除却の順位なり、之を構造別に示せば左の如し。



## 第二章 移轉計畫

本地區は當初之を百五十箇の移轉群に分ち、第十五移轉群の一部は大正十四年七月より第四、第五移轉群の一部は大正十五年三月より、其の他の移轉群は昭和二年二月より建物及工作物の現状調査に著手し、調査済の移轉群より逐次移轉工法並工程を定め、昭和三年二月移轉計畫の全部を終了せり。

然るに曩に第六十六地區に於て一旦整理を了したる向島小梅町及新小梅町の各一部は、隅田公園敷地擴張の關係に依り昭和四年三月九日新に本地區に編入せられ、再び整理を要することとなりたるを以て、更に一箇移轉群第五百十二移轉群を追加し、之が現状調査及移轉計畫は昭和四年七月終了したり。而して要移轉建物六千三百四十六棟に對する移轉工法を見るに曳方一部除却に依るもの二千八百八十三棟にして四割五分を占め、之に次ぐは移築一部除却の千五百十三棟にして二割三分に相當し、他は曳方、移築、据置一部除却の順位なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	工法別棟數		計
	曳方	一部除却	
木造建物	一、三〇〇	二、八七〇	六、二九六
石造平家建	二	一	七
同 二階建	一	一	二
煉瓦造平家建	七	五	一
同 二階建	二	二	三
鐵骨造平家建	二	一	一五
鐵筋コンクリート造二階建	一	一	一
計	一、三四八	二、八八三	六、三四六
要移轉總棟數に對する百分比	三二・四	四五・四三	一〇〇・〇〇



第四十四地區 乙 建物其の他の工作物移轉

前表中移築及移築一部除却工法に據るもの合計二千八十九棟にして、要移轉建物總棟數に對し三割三分を占むるが如き多數ありしは、地區内に幹線第六號、第十號、第三十號及第五十一號、補助線第十一號外五線並區劃整理街路の新設又は擴築せられたるに依り、勢ひ換地設計複雑となれり、例へば第六、第十四、第三十二、第四十九、第五十移轉群の如きは其の過半六百米乃至八百米の遠距離に換地せられたり、從つて移築工法に據るの已むなきに至りたるものなり。

前記計畫に依るときは、要移轉建物六千三百四十六棟此の延坪數八萬千七百九十坪七勺は、整理後に於て其の棟數に増減なきも坪數に於ては一割五分九厘の縮少を來し六萬八千七百七十四坪七勺となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

種別	整理前建物		整理後建物		差引	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
木造建物	六、二九六	八、〇〇二・二五 <sup>坪</sup>	六、二九六	六、二七〇・四九 <sup>坪</sup>	—	三、九五・六六 <sup>坪</sup>
石造平家建	七	四・二七	七	四・七二	—	四・五五
同二階建	一	一五・五	一	一五・五	—	—
煉瓦造平家建	三	一五・五	三	一六・二四	—	二・三一
同二階建	三	二六・〇〇	三	二二・二五	—	三・八五
鐵骨造平家建	一五	四八・六二	一五	四七・九	—	三〇・六三
鐵筋コンクリート造二階建	一	一〇・九二	一	一〇・九二	—	—
計	六、三〇六	八、一、七〇・〇七	六、三〇六	六、七四・〇七	—	一、四一〇・〇〇

要移轉建物六千三百四十六棟中第十五移轉群に屬する七棟は、駒形橋架設の爲急速移轉を要し又第四移轉群に屬する六棟、第五移轉群に屬する三十五棟計四十八棟は所有者に於て移轉速行の希望あり而かも換地豫定地は更地なるに依り何れも之を一般計畫より分離し、前者は大正十四年八月、後者は大正十五年六月に移轉工事を實施することとし、爾餘の六千二百六十八棟追加移轉群の三十棟を除くの移轉實施期間を、昭和二年六月より同四年四月迄の一年十一月とし、同二年に於て六百二十三棟、同三年に於て五千五百五十七棟、同四年に於ては四月迄に八十八棟の工事を完了することに豫定し、尙昭和四年三月九日本地區に編入せられたる向島小梅町及新小梅町の各一部第五百五十二移轉群の三十棟は同年十一月



同	二階建	一	一五・五	一	一五・五	一	三、〇〇〇
煉瓦	造平家建	三	一五・五	二	一八・四	一	二・三一
同	二階建	三	二六・〇	三	三・二五	一	三・八五
鐵骨	造平家建	一五	四八・六	一五	四七・九	一	三〇・六
鐵筋コンクリート	造二階建	一	一〇・九	一	一〇・九	一	一
計		六、四六	八一、七〇・七	六、三六	六、七四・七		三、〇一・〇

要移轉建物六千三百四十六棟中第十五移轉群に屬する七棟は、駒形橋架設の爲急速移轉を要し又第四移轉群に屬する六棟、第五移轉群に屬する三十五棟計四十八棟は所有者に於て移轉速行の希望あり而かも換地豫定地は更地なるに依り何れも之を一般計畫より分離し、前者は大正十四年八月、後者は大正十五年六月に移轉工事を實施することとし、爾餘の六千二百六十八棟追加移轉群の三十棟を除くの移轉實施期間を、昭和二年六月より同四年四月迄の一年十一月とし、同二年に於て六百二十三棟、同三年に於て五千五百五十七棟、同四年に於ては四月迄に八十八棟の工事を完了することに豫定し、尙昭和四年三月九日本地區に編入せられたる向島小梅町及新小梅町の各一部第五百五十二移轉群の三十棟は同年十一月に之が工事を完了することに豫定したり。

### 第三章 移轉手續

#### 第一節 移轉命令

駒形橋架設の爲、急施を要したる青物河岸の一部第十五移轉群中建物七棟及移轉速行希望に依る番場町の一部第四移轉群並番場町、新井町の各一部第五移轉群中建物三十九棟移轉速行希望に依る建物は四十一棟なるも内二棟は協議移轉に依りたりに對し、前者は大正十四年四月二十四日に移轉命令四通、同通知二通、後者は大正十五年三月九日に移轉命令二十九通、同通知三十二通を發したり、而して一般計畫の建物に對する移轉命令は、昭和二年三月に至り之が發令を開始し、同月中に中ノ郷横川町の一部第

第四十四地區 乙 建物其の他の工作物移轉



八十九移轉群外二箇移轉群建物九十八棟及工作物に對し移轉命令八十八通、同通知五十六通を發し、爾來引續き發令に努め昭和三年二月十日荒井町の一部第二十六移轉群の殘部に對する發令を以て一先之を終了したるも、其の後に至り隅田公園擴張の關係に依り、追加編入せられたる第五百五十二移轉群の建物三十棟及工作物に對し、同四年八月十三日之が發令を了したるを以て、要移轉建物六千三百四十六棟の内、協議竝直轄移轉に依る百七十五棟を除きたる六千七百七十一棟及工作物に對し、移轉命令五千六百五十七通、同通知三千八百十八通を發し、茲に全部の發令を終へたり。

## 第二節 協議竝直轄移轉

### 第一 協議移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物百六十七棟、工作物二十八件あり、内建物二十五棟は官公署の所有にして事業實施の便宜上協議移轉を爲したるもの、其の他の建物百四十二棟工作物二十八件は民有にして内建物六十一棟は、電車軌道敷設の爲急速移轉を要したるもの、又建物二棟は移轉速行希望に依るもの、他の建物七十九棟、工作物二十八件は移轉促進の爲特に急施を要したるものなり。

右の外一旦移轉を了したる建物にして、其の敷地が橋臺地地揚に伴ひ宅地造成を要したる爲、更に本手續に依り二重移轉を爲したるもの二十三棟あり。之を橋梁別に示せば左の如し。

駒形橋三棟、吾妻橋十五棟、業平橋四棟、平川橋一棟

### 第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉を爲したるもの建物八棟、工作物一件、立木二件及動産一件あり、内建物四棟

は官公署の所有にして其の希望に依り直轄施行を爲したるもの、其の他の建物四棟、工作物一件、立木二件及動産一件は民有にして、建物は何れも所有者の住所不明の爲移轉命令の發令不能なりしも、工作物は借地權なき建物の移轉を阻止する目的を以て借地權者に於て其の換地に掛小屋を設置し之が撤去に應ぜざりしもの、立木は各所有者に於て神木なるの故を以て濫りに移植せしむること能はずと稱し移轉に應ぜざりしもの、動産は他人の換地に木材を堆積し之が撤去に應ぜざりしに因るものなり。



右の外一旦移轉を了したる建物にして、其の敷地が橋臺地地揚に伴ひ宅地造成を要したる爲、更に本  
手續に依り二重移轉を爲したるもの二十三棟あり。  
之を橋梁別に示せば左の如し。

駒形橋三棟、吾妻橋十五棟、業平橋四棟、平川橋一棟

## 第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉を爲したるもの建物八棟、工作物一件、立木二件及動産一件あり、内建物四棟

は官公署の所有にして其の希望に依り直轄施行を爲したるもの、其の他の建物四棟、工作物一件、立木  
二件及動産一件は民有にして、建物は何れも所有者の住所不明の爲移轉命令の發令不能なりしも、工作  
物は借地權なき建物の移轉を阻止する目的を以て借地權者に於て其の換地に掛小屋を設置し之が撤去に  
應ぜざりしもの、立木は各所有者に於て神木なるの故を以て濫りに移植せしむること能はずと稱し移轉  
に應ぜざりしもの、動産は他人の換地に木材を堆積し之が撤去に應ぜざりしに因るものなり。

## 第四章 損害補償

### 第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、即ち早期移轉を要したる第十五移轉群の七  
棟は大正十四年六月に第四、第五移轉群の三十九棟は同十五年五月に、其の他の一般計畫に屬する建物  
に對しては昭和二年五月より建物及工作物の新築費並動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地  
調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定を爲し、第十五移轉群の七棟は大正十四年六月に第  
四、第五移轉群の三十九棟は同十五年六月に、其の他の一般計畫に屬する建物に對しては昭和二年五月  
以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は昭和三年九月迄に終了し、又補償審査  
會に於ける補償金の決定も回を重ねること四十七回(變更案の決定を含む)にして同三年十月一先終了したるが、其  
の後に至り尙既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと七回に及び、同四年六月全



部の決定を了せり、然るに第六十六地區に於て一旦整理を了したる向島小梅町及新小梅町の各一部は隅田公園敷地擴張の關係に依り新に本地區に編入せられたるを以て、之に所在する要移轉建物三十棟及工作物に對しては、昭和四年八月現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定を爲し、同年十月補償審査會の審議決定を経たり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及其の他の移轉料總額は左表の如く三百十二萬千七百七十七圓二十五錢にして、内國負擔額二十八萬六千二百七十七圓五十二錢、市負擔額二百八十三萬四千八百九十九圓七十三錢なり。

種別	棟數	延坪數	補償金	内訳	
				區分	金額
一般移轉	六、三六六	八、七〇〇・七坪	三、二二、七五・八六	計	三、二二、二七五・八六
				建物移轉料	一、七六、四八〇・〇五
				工作物移轉料	三七、三九・二一
				造作移轉料	六二、一五・五九
				動産移轉料	一三八、七五・一四
				休業補償	三五、七八・二五
				雜費	二四、九八・〇二
				計	三、二二、二七五・八六
				坪當	二・九七
				坪當	四・六一
				坪當	〇・七六
				坪當	二・九二
				坪當	四・三〇
				坪當	三・四八
				坪當	三・〇四

合	橋臺地々揚に依る二重移轉	計	延坪數	建物移轉料其他	坪當
	一三三	六、三六六	六〇六・〇四	九、九〇・一元	一六・四
		八三、三九六・二一	三、三三、一七五・三五	三、三三、一七五・三五	三七・八

因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し。

種別	棟數	延坪數	延一坪棟數	新築費	坪當單價



一般移轉	六、三六六	八、七九〇・〇七 <sup>坪</sup>	三、二二七・五八 <sup>坪</sup>	造作移轉料	六、一五五・三九	〇・七六
				動産移轉料	三三八、七五・二四	二・九二
				休業補償	三五、七六・二五	四・三〇
				雜費	二八四、九六・〇二	三・四八
計					三、二二七・五八六	三八・〇四

橋臺地々揚に依る二重移轉	一三三	六〇六・〇四	九、九〇一・三九	建物移轉料其他	九、九〇一・三九	一六・三六
合計	六、三六六	八三、三九六・二二	三、三二一、一七・三五		三、三二一、一七・三五	三七・八八

因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し。

種別	棟數	延坪數	延一棟坪數當	新築費	坪當單價
木造建物	六、二九八	八二、〇八三・一五 <sup>坪</sup>	二・三・八七 <sup>坪</sup>	四、五七六、五九・八一 <sup>円</sup>	五・四四 <sup>円</sup>
石造平家建	七	四六・二七	六・六二	五、三四三・七三	一五・四九
同二階建	一	一五・五五	一五・五五	三、四六・五八	三九・五七
煉瓦造平家建	三	一五・五五	七・五九	二四、一四五・〇二	一五・三三
同二階建	三	一六・〇〇	八・六六	五、九五六・二〇	三九・一六
鐵骨造平家建	一五	四四八・六二	二九・九〇	六、二九三・二四	一三八・八五
鐵筋コンクリート造二階建	一	一〇・九二	一〇・九二	三、四〇〇・五〇	三二五・〇六
工作物	—	—	—	一、九四八、三〇〇・〇八	一三三・八一
計	六、三四六	八、一七〇・〇七	三・三八	六、六二九、五七・二六	八一・〇五

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

第四十四地區 乙 建物其の他の工作物移轉



## 第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は第十五移轉群の一部を大正十四年六月に、第四、第五移轉群の各一部を大正十五年六月に之を爲し、一般計畫に依る各移轉群に係るものは昭和二年五月之を開始し、爾來決定の都度之が通知を爲し、同三年十月を以て一先終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり、之が變更通知は同四年六月に及びたり、尙第一百五十二移轉群建物及工作物に對する移轉損害補償金の決定通知は昭和四年十月之を爲したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、大正十四年八月より之が交付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額三百一十一萬八千二百四十七圓九十九錢にして、内國負擔額二十八萬六千二百七十七圓五十二錢、市負擔額二百八十三萬九千九百七十圓四十七錢なり。

## 第五章 移轉實施

## 第一節 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く、駒形橋架設の爲、急施を要したる第十五移轉群の建物七棟は大正十四年八月に、第四移轉群及第五移轉群の建物四十一棟は所有者の移轉速行希望に依り大正十五年六月に、一般計畫に屬する建物六千二百六十八棟は昭和二年六月より昭和四年四月迄に、又追加

編入に係る第一百五十二移轉群所在建物三十棟は昭和四年十一月に之を完了する豫定なりしところ前記早期移轉を要したる第十五移轉群所在建物七棟は豫定に遅るゝこと二箇月にして、大正十四年十月迄に、第四、第五移轉群所在建物四十一棟は豫定に遅るゝこと五箇月にして大正十五年十一月迄に完了し、一般計畫に屬する六千二百六十八棟の移轉は昭和二年に於ては著しく遅延したるも、昭和三年及同四年に於ては順調の進捗を見たるを以て、結局最終工期たる昭和四年四月迄に全部の工事を完了し又追加編入に係る第一百五十二移轉群の工事は豫定に遅ること一箇月即ち昭和四年十二月迄に完了を告げ、建物以外の工作物も亦同時期迄に移轉を完了したり、之を移轉手續別に分類するときは、命令に依りたるもの



# 第五章 移轉實施

## 第一節 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く、駒形橋架設の爲、急施を要したる第十五移轉群の建物七棟は大正十四年八月に、第四移轉群及第五移轉群の建物四十一棟は所有者の移轉速行希望に依り大正十五年六月に、一般計畫に屬する建物六千二百六十八棟は昭和二年六月より昭和四年四月迄に、又追加

編入に係る第五百十二移轉群所在建物三十棟は昭和四年十一月に之を完了する豫定なりしところ前記早期移轉を要したる第十五移轉群所在建物七棟は豫定に遅るゝこと二箇月にして、大正十四年十月迄に、第四、第五移轉群所在建物四十一棟は豫定に遅るゝこと五箇月にして大正十五年十一月迄に完了し、一般計畫に屬する六千二百六十八棟の移轉は昭和二年に於ては著しく遅延したるも、昭和三年及同四年に於ては順調の進捗を見たるを以て、結局最終工期たる昭和四年四月迄に全部の工事を完了し又追加編入に係る第五百十二移轉群の工事は豫定に遅るること一箇月即ち昭和四年十二月迄に完了を告げ、建物以外の工作物も亦同時期迄に移轉を完了したり、之を移轉手續別に分類するときは、命令に依りたるもの六千七百一十一棟(代執行を爲したるもの十四棟を含む協議に依りたるもの百六十七棟、直轄工事に依りたるもの八棟なり)。

移轉實施月別棟數表 (本表棟數は協議移轉及直轄移轉のものを含む)

年	月	移轉命令		補償金決定		工事完了豫定		工事完了	
		月別	累計	月別	累計	月別	累計	月別	累計
大正十四年	四月	七	七	一	一	一	一	一	一
	六月	一	七	一	二	一	二	一	二
	八月	一	七	一	三	一	三	一	三
	十月	一	七	一	四	一	四	一	四
	三月	四	七	一	五	一	五	一	五
	六月	一	七	一	六	一	六	一	六
			七		七		七		七

第四十四地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第四十四地區

乙 建物其の他の工作物移轉

五〇

昭和十五年												昭和二年											
七月	八月	九月	十一月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇					

昭和三年					
六月	七月	八月	九月	十月	十一月
六、二六〇	六、二六五	六、二七〇	六、二七五	六、二八〇	六、二八五
二、二七九	五三三	二	四	八	四
五、六九六	六、二八	六、二九	六、三〇	六、三一	六、三二
四九六	六八二	五六一	五五九	五〇六	二六四
三、五二二	四、一〇三	四、七六四	五、三三三	五、八九元	六、〇九三
三九	六八	一一四	一、〇五三	一、〇〇八	六〇八
九七九	一、五九七	二、二七二	二、七四	四、七八二	五、三九〇
					五、七八二
					五、七八二



第四十四地區 乙 建物其の他の工作物移轉

昭和四年												昭和三年						
十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月
				三				三	五		〇	三	四	八	六	三	五	四
				六、三四六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三〇八	六、三〇八	六、二九八	六、二九五	六、二九一	六、二八三	六、二七七	六、二六〇
		三						三	五		〇	三	四	八	四	二	五	二、二七九
		六、三四六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三〇八	六、三〇八	六、二九八	六、二九五	六、二九一	六、二八三	六、二七九	六、二二八	五、六九六
	三							六	三	二	三	二	四	五	五	六	四	四九六
	六、三四六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三〇〇	六、二八八	六、二六二	六、二三八	六、〇九三	五、八八九	五、三三三	四、七六四	四、一〇三	三、五二二	
一八	三							八	六	一	一	一、〇〇八	一、〇五三	一、二二四	一、二二四	六八八	三九	
六、三四六	六、三三八	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三三六	六、三〇八	六、二四一	五、七八二	五、三九〇	四、七八二	二、七四	二、七二	一、五九七	九七九		

十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月
六、二二二	六、三三三	六、四四一	六、五五四	六、五五五	六、五五五	六、五五六
五	六	九	三	一	一	一
七、五五	八、六	八、五	一、二五二	一、八九〇	二、五三三	三、四二七
一〇	四	八	四	八	八	五
六、二二二	六、三三三	六、四四一	六、五五四	六、五五五	六、五五五	六、五五六
二	七	一〇	七	九	二	一
一、四	二、七	二、五九	三、六〇	四、三	七	二
一、四	二、七	二、五九	三、六〇	四、三	七	二



第二節 代執行

移轉命令を受け指定期限を経過し、現場係員より工事實施方に付、屢次誘導督勵を爲すも容易に其の義務を果さざる爲、戒告を爲したる人員五百七十五人、建物七百二十七棟ありたり。  
前記の内戒告後も尙其の義務を履行せざる爲、代執行を爲したる人員九人、建物十四棟あり、其の主なる原因は、全く義務者の怠慢に依るもの六人九棟、借地權に關し繫争中の建物にして義務者自ら移轉し得ざるもの三人五棟なり。

第三節 臨時收容家屋

移轉工事開始に伴ひ臨時收容家屋の必要に迫られたるを以て、大正十四年八月番場町五十四番に住宅二十棟、物置八棟を設置し、同年九月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ、使用希望者増加したるを以て、順次増設を爲し工事終了の直前迄其の用に供したり、之が棟數及收容世帶數等を示せば左の如し。

設置場所	棟數		設置撤去		期	間	住	宅		物	置	
	住宅	物置	年	月				人員	人員			
本所區番場町五十四番	二〇	八	大正二四、八	昭和三、四	自大正二四、九	上	一九	九・六〇	一、三二	六〇・六〇	九	二・五〇
同番場町十八番	二〇	七	昭和二、三	同三、四	自昭和三、五	上	六	三・一〇	四〇	二〇・五〇	三	四・二八

同番場町九番	一〇	二	二、四	同三、四	自昭和三、四	上	五〇	五・〇〇	一六三	一六・三〇	一〇	五・〇〇
同中ノ郷瓦町十番	二四	七	二、五	同三、八	自昭和三、六	上	一三	五・二	七四五	三〇・九五	四	五・九二
同中ノ郷竹町二十七番	三	二	三、四	同四、一	自昭和四、一	上	一六	四・五	九〇五	二五・一三	一八	九・〇〇
同表町二十七番	一五	二	三、八	同四、一	自昭和四、一	上	二五	一・六六	一四三	九・五〇	四	二・〇〇



設置場所	棟数	物置	設置撤去		期	間	住		宅	物	容	
			年	月			世帯数	人員				
本所區番場町五十四番	二〇		八	大正二、四、八	自昭和四、九	上	一九三	九・六〇	一、三三	六〇・六〇	二	二・五〇
同番場町十八番	二〇		七	昭和二、三	自昭和三、四、五	上	三	三・一〇	四〇	二〇・五〇	三	四・二八

設置場所	棟数	物置	設置撤去		期	間	住		宅	物	容	
			年	月			世帯数	人員				
同番場町九番	一〇		二	二、四	自昭和三、四	上	五〇	五・〇〇	一六三	一六・三〇	一〇	五・〇〇
同中ノ郷瓦町十番	二四		七	二、五	自昭和三、六	上	二二	五・二	七四五	三〇・九五	四	五・九二
同中ノ郷竹町二十七番	三六		二	三、四	自昭和四、一	上	一四	四・五	九〇五	二五・一三	一八	九・〇〇
同表町二十七番	一五		二	三、八	自昭和四、一	上	二五	一・六	一四三	九・五〇	四	二・〇〇
同向島小梅町八十一番	一三		二	三、八	自昭和四、二	上	一六	一・三	九七	七・四六	三	一・五〇
計	一八	三〇					六三	四・八	三、七五	二七・三	一九	六・六

第四節 宅地造成

本地區は地勢一般に低濕地にして、従前に比し低地を換地として指定せられたるもの多かりし爲、工事件數百十二件二百三十三箇所に及べり、而して工事種別は盛土工九十件二百五箇所、假下水十二件十六箇所、土留工八件十箇所(内大谷石積工四件六箇所)此の面坪三十三坪〇八、板柵工三件三箇所此の面坪二十六坪三八、コンクリート工一件一箇所此の面坪七坪六九及切土工二件二箇所にして、盛土工は下水利立の八十七箇所及池の埋立一箇所を除く外は全部従前に比し低地を換地として指定せられたるに因り、土留工は吾妻橋東詰駒形橋東詰及向島小梅町三十七番附近に於ける道路標高の變更に因るものにして、切土工は表町の庭園跡の整理なり。

工事著手は大正十五年九月番場町十八番の盛土工を最初とし、爾來建物移轉の進捗に伴ひ逐次工事を



施行し、昭和四年九月向島小梅町三十八番、四十三番の盛土工を最後とし、百十二件の工事を全部完了したり、之に因る宅地造成完了總面積は五千九百五十五坪一合三勺なり。

前記の外駒形橋、吾妻橋、業平橋、平川橋の橋臺地揚に因る宅地造成工事五件六箇所あり、其の工事種別は盛土工四件五箇所、土留工一件一箇所(大谷石積工)にして昭和三年十一月より同四年十一月に至る間に橋梁工事の進捗に伴ひ工事を施行したり、之に因る宅地造成完了總面積は六百二十五坪三合四勺なり。

以上の工事状況を表示すれば左の如し。

一般宅地造成工事状況

工事種別	工事		數量	金額	直		營		請		譯	
	件數	箇所			件數	箇所	件數	箇所	件數	箇所	數量	金額
假下水	三	一六	七三・六〇 <sup>間</sup>	二四・六〇 <sup>円</sup>	九	二二	二四三・〇〇 <sup>間</sup>	一一・六〇 <sup>円</sup>	三	四	四六〇・四〇 <sup>間</sup>	一五・〇〇 <sup>円</sup>
土留工	八	一〇	六七・一五 <sup>面坪</sup>	一、七〇・二一	一	一	一	一	八	一〇	六七・一五 <sup>面坪</sup>	一、七〇・二一
盛土工	九	二〇五	二、〇〇・〇九 <sup>立坪</sup>	二五、八九・九四	六	一五	四六・七〇 <sup>立坪</sup>	六、五八・二三	三〇	五〇	一、五四・七二 <sup>立坪</sup>	一九、三三・七二
切土工	二	二	一〇・五三 <sup>立坪</sup>	四六・二四	一	一	一	一	二	二	一〇・五三 <sup>立坪</sup>	四六・二四
計	二二	二三三	一	二七、九六・八九	六	一三	一	六六四・八二	四	七	一	二、三三・〇七

橋臺地々揚に因る宅地造成工事状況

工事種別	工事件數	工事箇所	數量	金額	
				量	額
盛土工	一	一	七・四〇 <sup>面坪</sup>	一八六・九二 <sup>円</sup>	
土留工	四	五	二九四・〇八 <sup>立坪</sup>	二、九七・二二	
計	五	六	一	三〇一・一〇	



計	切土工	盛土工	土留工
一三三	二	九	八
二三三	二	二〇五	一〇
一	立碑 一〇・五三	立碑 二、〇〇〇・九	立碑 六七・一五
二七、九六・八	四六・二四	一五、八九・九四	一、七〇・二
充	一	六	一
一三	一	一五	一
一	一	立碑 四六・七	一
六、六四・八	一	六、五八・二三	一
四	二	三〇	八
七	二	五	一〇
一	立碑 一〇・五三	立碑 一、五四・七三	立碑 六七・一五
二、三三・〇七	四六・二四	一九、三三・七三	一、七〇・二

橋臺地々揚に因る宅地造成工事状況

盛土	土留	計
工	工	工
五	四	一
六	五	一
二、九四・〇八	立碑 七・四〇	立碑 一八六・九一
一	一	二、九七・二
三、一〇一・四	一	三、一〇二・四

備考 工事は全部請負工事なり。

第六章 墳墓移轉

本地區に於て整理を要したる墓地は、本市所有元寺院境内共葬墓地十一筆、私有墓地十六筆合計二十七筆此の總面積四千五百二十三坪九合三勺にして、之に所在する墓碑七千五百十基なり。前記墓地の内一般宅地の換地又は公共用地となりたる面積は二千九百二十九坪九合六勺にして、之に所在し移轉を要したる墓碑は五千四十六基なり。

昭和二年三月より墓碑其の他の現地調査に著手、其の調査に基き移轉料の算定を爲し、同年四月より同三年一月迄に墓地管理者と順次協議を遂げ、昭和二年六月より翌三年五月に至る間に於て夫々移轉することとしたり、之に要したる移轉料の總額は九萬二千四百八十四圓六錢、内國負擔三萬二千九百二十四圓三十一錢、市負擔額五萬九千五百五十九圓七十五錢にして其の支拂は昭和三年十月迄に全部之を了



したり。

前記契約及移轉完了豫定年月日並移轉料を管理寺院別に示せば左の如し。

管理寺院名	要移轉 墓碑基 數	埋葬 靈數	契約年月日	移轉完了 豫定年月日	移		轉		計	料
					墳墓	工作物	雜費	一基當		
清光寺	二八二	九七六	昭和二、九、二六	昭和三、二、二六	三、五〇三・四	一、一六六・四	三、九〇・三	三、九〇・四	一四、二〇	
華嚴寺	四二一	一、七九四	同 三、一、六	同 三、二、二六	五、一〇六・七〇	一、一五九・四	七、四九・三	五、九八七・五七	一四、五六	
源光寺	四九二	二、五六六	同 二、八、二五	同 二、二、八	六、四七八・四	一〇八・四〇	九六二・六七	七、四八八・九一	一五、〇三	
泉龍寺	三八	八七〇	同 二、八、二五	同 二、二、三〇	三、五八四・四	一四七・一八	五七〇・六	四、二六九・三〇	一六、四六	
妙源寺	八六	四、七七八	同 二、七、二五	同 二、三、三	一、四二一・八一	一、五八〇・二〇	一、八六二・六七	一五、八五五・〇五	一八、九一	
即源寺	六	一九	同 二、七、二五	同 三、二、二五	一七八・四八	五七・五二	一五・七六	二六二・七六	四、六二	
東江寺	二〇九	七四	同 二、五、二〇	同 三、二、二五	二、七三三・〇四	三、五五・五〇	三、五三・八六	三、四二二・四〇	一六、三七	
實相寺	二八〇	一、五五五	同 二、六、三〇	同 二、九、三〇	三、一四一・七〇	八九二・三	四七二・二〇	三、七〇一・七〇	三三、三	
榮壽院	一五七	二四	同 二、六、二七	同 二、八、二〇	六八四・八一	一四七・六三	二、三九・六九	一、〇七二・二四	一八、八〇	
本久寺	二五二	九八〇	同 二、七、二五	同 二、九、三〇	三、五九〇・八	七〇六・四六	五、六・八六	四、八三三・四〇	一九、一三	
長建寺	二二七	一、一三三	同 二、四、二〇	同 二、六、三〇	四、五〇〇・七	三六・九	四、八・七五	五、〇五五・七〇	三三、〇九	
桃青寺	一三六	八七	同 二、二、二五	同 三、三、三	一、七六六・六	二、五二・〇	三、九・八六	二、三三三・〇一	一七、〇五	
妙緣寺	三三	八、四〇五	同 二、三、二	同 三、五、三	六、四五六・五	一、八八二・三	八、九・五	九、一七九・二	一四、四二	
松嶺寺	一〇三	九六	同 二、三、二	同 三、五、三〇	二、三三八・四	二、八・三〇	三、三・六	二、八五九・三	一四、〇八	

靈光寺	一九二	一、三二一	同 二、三、二	同 三、二、二六	二、七〇六・七四	一〇一・九六	三、八六・三三	三、一九四・九三	一六、六四
延命寺	二六	六九	同 二、六、二	同 三、三、三	一、七七・六	二、九六・三	二、六六・六	二、三四・五〇	二〇、一七
南藏院	一七三	一、一三三	同 二、七、二	同 三、三、三	二、八八・一〇	一、一五三・七五	四、四・二	四、四〇六・〇六	一五、四六
如意輪寺	五五	四八	同 二、〇、二	同 三、一、三	一、二五・四八	二、六・〇一	二〇二・五九	一、三五四・〇七	一四、二五
清雄寺	一九〇	九〇	同 二、二、二	同 三、四、三〇	四、二七八・八八	九七二・二七	四、八四・八〇	五、七三四・八五	一九、七七
天祥寺	八六	一六八	同 二、二、三	同 三、五、三	九〇七・三六	四、一〇八・〇五	一、六三・三	五、一七八・七五	六〇、二



榮壽院	本久寺	長建寺	桃青寺	妙緣寺	松嶺寺
一五	一五三	二七	一三	三六	一〇三
二四	九〇	一、一三三	八、四〇五	一六八	一〇三
同二、六、七	同二、七、五	同二、四、〇	同二、二、五	同二、二、三	同二、三、二
同二、八、〇	同二、九、三〇	同二、六、三〇	同三、三、三	同三、五、三	同三、五、三〇
六四、八二	三、五九、〇八	四、五〇、七六	一、七六、六六	六、四六、五〇	二、三六、四〇
一四七、六三	七〇六、四六	三六、一九	二五、二〇	一、八二、三三	二六、三〇
一三九、六九	五、六、八六	四、五、七五	三、九、八六	八、九、五五	三、三、六八
一、〇七、二四	四、八三、四〇	五、〇五、七〇	二、三三、〇二	九、一七、二二	二、八五、三二
一八、八〇	一九、一三	一三、〇九	一七、〇五	二、四、四二	一四、〇八

靈光寺	延命寺	南藏院	如意輪寺	清雄寺	天祥寺	計
一五二	一六	一七	九	二九〇	八六	五、四六、四〇
一、三一	六九	一、一三	四八	九〇	一六八	四、四六、四〇
同二、三、三	同二、六、二	同二、七、二	同二、〇、六	同二、二、四	同二、二、三	同三、三、三
同三、二、六	同三、三、三	同三、三、三	同三、一、三	同三、四、三〇	同三、五、三	二、七〇、七四
二、七〇、七四	一、七七、六四	二、八八、〇一	一、二五、四八	四、二八、八八	九〇七、六四	二、七〇、七四
一〇一、九六	二九六、三三	二、五三、七五	二六、〇一	九七、二七	九〇七、六四	二、七〇、七四
三六六、三三	二六六、六四	四四、二二	二〇、二九	四八四、八〇	一六三、三三	九、九三、〇六
三、一九四、九三	二、三四、五〇	四、四六、〇六	一、三三、〇七	五、七四、八五	五、一七、七五	九、九三、〇六
一六、六四	一〇、一七	二五、四六	一四、二五	一九、七七	六〇、二二	一八、三三

前記墳墓の移轉は昭和三年五月迄に完了する豫定なりし處、桃青寺、松嶺寺、妙緣寺、天祥寺を除く他の寺院の管理に係る墓地は無縁の墳墓多く、之等に對する手續に意外の日子を要したる爲、何れも豫定の進捗を見る能はず、特に泉龍寺、延命寺、源光寺の管理に係る墓地は其の整理に當り、寺院と檀家との間に移轉に關し紛争を醸し容易に工事に著手せざりしが、昭和三年七月に至り漸く双方共諒解成りたる結果移轉に著手し、同年九月迄に各寺院の特設墓地に全部移轉を了したり。











年度別工事進捗状況

種別	大正十四年		大正十五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一地區集計														
電柱			八五六	九三、九四一、一九〇七	九本	八、九六九	二九三本	二六、一六一、九〇〇	八〇本	七、七三三	七四六、五三三、一九七七	三本	三、一〇九	三八一、二五三、九
管線路				六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三
應急整理														
其他														
假本整理														
管線路														
其他														
私有管線														
道路後修														
合計														
進捗歩合%														

國市負擔區分

種別	國負擔		市負擔		合計
	數量	金額	數量	金額	
水道					
電氣					
瓦斯					
電話					
參謀本部					
計					



進歩割合	合計	私有管線	道路後修	合計
100	四七、二七、四	一〇、六三、八	一、九〇、五	一六、四〇、七
	一	一五、七、八	一、五七、八	一七、二、四
	二	一四、〇、八	一、四〇、八	一五、四、一
	三	一、五、七	一、六三、九	一、七九、六
	四	二、六、八	一、五、七	四、二、五
	五	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	六	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	七	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	八	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	九	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	一〇	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	一一	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	一二	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	一三	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	一四	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	一五	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	一六	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	一七	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	一八	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	一九	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	二〇	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	二一	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	二二	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	二三	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	二四	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	二五	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	二六	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	二七	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	二八	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	二九	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	三〇	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	三一	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	三二	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	三三	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	三四	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	三五	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	三六	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	三七	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	三八	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	三九	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	四〇	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	四一	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	四二	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	四三	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	四四	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	四五	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	四六	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	四七	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	四八	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	四九	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	五〇	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	五一	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	五二	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	五三	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	五四	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	五五	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	五六	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	五七	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	五八	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	五九	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	六〇	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	六一	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	六二	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	六三	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	六四	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	六五	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	六六	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	六七	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	六八	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	六九	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	七〇	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	七一	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	七二	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	七三	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	七四	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	七五	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	七六	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	七七	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	七八	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	七九	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	八〇	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	八一	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	八二	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	八三	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	八四	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	八五	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	八六	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	八七	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	八八	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	八九	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	九〇	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	九一	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	九二	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	九三	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	九四	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	九五	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	九六	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	九七	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	九八	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	九九	三、一、五	一、五、七	四、七、二
	一〇〇	三、一、五	一、五、七	四、七、二

國市負擔區分

種別	水道		市電		東電		瓦斯		電話		參謀本部		計
	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	
一地區集計	三、九六、二五	八三、一五、八六	二七、二八、二二	六四、八四	一三、九八、三六	三、二四、〇七	四、八〇、七一	三、〇七、一四	一、〇〇、〇〇	六、〇九、一六	一、五七、〇一	三、一四、〇九	一五七、〇一、七四
應急整理一工事				七四〇、六二	一、〇二、〇七	三三、六六						一六、〇〇	二、三八、五三
假本整理													三三、六六
計	二、三三、七五	二、三三、七五	二、三三、七五		三、六九、〇八	三、七五、七二	二、七五、七〇	三、七五、七一					一六、三三、七二
國負擔	五、七四、〇七	五、九六、〇三	三、七三、二〇		一、六四、四三	二、七五、七〇	三、四〇、三九	二、七五、七〇					一〇、二五、二〇
市負擔	三、七三、二〇	三、七三、二〇	三、七三、二〇		二、六七、二七	二、六七、二七	二、六七、二七	二、六七、二七					二、二一、四〇、一八
事業者拂													三三、二五、三六
現金補償(個人拂)													二、四九、〇六
計	七、六四、〇〇	七、六四、〇〇	七、六四、〇〇		二、〇六、二四	二、〇六、二四	二、〇六、二四	二、〇六、二四					二四、一〇、七〇
國負擔	六、二八、九八	六、二八、九八	六、二八、九八		三、一三、一五	三、一三、一五	三、一三、一五	三、一三、一五					二、六三、二六
市負擔	一、三五、〇二	一、三五、〇二	一、三五、〇二		三、七九、〇〇	三、七九、〇〇	三、七九、〇〇	三、七九、〇〇					一、四五、四七、八八
計	七、六三、一〇	七、六三、一〇	七、六三、一〇		四、二二、一五	四、二二、一五	四、二二、一五	四、二二、一五					二、七〇、八七、二四

第四十四地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第四十四地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

合 計	道路後修	
	市負擔	國負擔
二〇六、五七・五	一三、〇六九・四七	四〇、〇八三・二四
七四六・八一	六・一九	一、四七二・二
一〇六、三三・五	一七、五二・九	四、五八・三
一〇六、三三・五	一、四七二・二	一九、六三・五
一〇六、三三・五	八三、八〇・九	一三、六三・五
三三・五	一三・五	—
一六〇〇	—	—
四七、二七・四	一六〇〇	一、〇五・二
—	—	七六、八六・〇
—	—	二、〇二・六
—	—	一、〇五・二

年度別工事費支拂進捗状況

種 別	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	支拂未済	計
一 地 區 集 計	—	九〇、七九・四七	一三、四三・五	一〇八、〇五・〇八	—	二二二、四〇・九〇
應急整理一工事	二〇二・三	三九六・七	八七〇・二	九二四・四	—	二、三八三・五
假 本 整 理	一五・六	—	七、九一・三	八、二八・〇九	—	一六、四二・〇
私 有 管 線	一、三九・五	一五、三三・四	二九、一八・〇〇	七、九六・七	—	一五、八七・二
道 路 後 修	二九五・六	三、二五・七	一五、六九・四	—	—	一九、〇五・一
計	二、〇三九・七	二一九、六八・五	一六六、一〇一・六	二二五、三八・八	三、九四・四〇	四七、二七・四
進 捗 歩 合 %	—	二六	四〇	三〇	—	一〇〇

第二章 本枝管線處理

第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける當初契約數量は電柱三百五十七本、管線路二萬八千二百五十五間五及之に關係せる各種工作物にして此の整理費二十三萬八千七百六十圓二十一錢なり、而して假契約は東電工作物に關し大正十五年一月十一日締結したるを、工事は水道工作物に關し昭和二年二月二十日著手したるを、本契約は東電工作物及瓦斯工作物に關し同年十二月十二日締結したるを各最初とし、それより逐次各事業者と



進捗歩合%	道後修	私路管線
100	19,511.11	19,511.11
1	3,914.00	3,914.00
30	135,384.6	135,384.6
40	126,101.36	126,101.36
26	119,628.35	119,628.35
1	2,039.07	2,039.07

## 第二章 本枝管線處理

### 第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける當初契約數量は電柱三百五十七本、管線路二萬八千二百五十五間五及之に關係せる各種工作物にして此の整理費二十三萬八千七百六十圓二十一錢なり、而して假契約は東電工作物に關し大正十五年一月十一日締結したるを、工事は水道工作物に關し昭和二年二月二十日著手したるを、本契約は東電工作物及瓦斯工作物に關し同年十二月十二日締結したるを各最初とし、それより逐次各事業者と契約を締結し工事を施行したり、其の事業者別契約並工事狀況を示せば左の如し。

事業者	假契約年月日	本契約年月日	工事著手年月日	工事竣功年月日
市水道局	大正 五、 六、 二	昭和 三、 二、 三	昭和 二、 二、 二〇	昭和 五、 二、 二六
東京電燈株式會社	大正 五、 一、 二	昭和 二、 三、 三	昭和 二、 一〇、 二六	昭和 五、 二、 二四
東京瓦斯株式會社	大正 五、 七、 二六	昭和 二、 三、 三	昭和 二、 三、 四	昭和 五、 八、 三〇

工事施行中設計變更を爲したる件數二十五件ありたる結果、整理數量に於て増加したるも工作物の種類其の他の關係上、工事費に於ては一萬七千三百四十九圓三十一錢の減額を爲せり、其の設計變更狀況を示せば左の如し。



種別	電		柱		管		線		路		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
當初契約	三〇七本	三六、一九二・元	一八、二五五間	二〇二、四八八・元							三三八、七〇三・元
設計變更後(精算)	三六	三、四一五・九	二六、三三三	一八七、五八六・九							三二一、四〇・九
差引増△減	二四	△二、二七〇・四	五・七	△一五、二二・八							△一七、三四九・三

尙工事並支拂狀況等を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年度	電		柱		管		線		路		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
大正十五年	一本	八五・六	八五・六	九三六・九四							九三六・九四	一
昭和二年	九	八九・六九	一一、九〇・七	五、九二・九三							六、七三二・六二	三
昭和三年	二九二	二六、二六・九〇	一一、七三・二	六、〇七二・三三							八八、三四・二二	四〇
昭和四年	八〇	七、七三・三三	一四、五六・二	二五、一九五・二三							一二三、六七・四五	五五
昭和五年	一	七四六・五	七四六・五	三、一九・七七							三、一九・七七	一
計	三八二	三四、五三・九二	二八、三三・二	一八七、二五六・九							三三二、四〇・九〇	一〇〇

支拂狀況

年度	國負擔	市負擔	計	歩合%
昭和三年	三四、二八五・九〇	五六、五〇六・五七	九〇、七九二・四七	四二
昭和四年	六、四九九・八七	一五、九三三・四八	二二、四三三・三五	一〇
昭和五年	二三、四三三・二九	八四、七六一・六九	一〇八、二〇五・〇八	四九
計	六〇、二一八・一六	一五七、二〇一・七四	二一七、四一九・九〇	一〇〇



昭 和 五 年 計	昭 和 四 年	昭 和 三 年	昭 和 二 年	昭 和 正 十 五 年
三六二	一八〇	二九二	九	一〇〇
三〇、一五・九二	一	二六、六一・九〇	八九・六九	八五・六
二八、三三・三二	七四六・五	一四、五八・二	一、七三・二	八五・六
一八、二五・九	三、三九・七	二五、一五・二三	六二、〇七・三	九三六・九四
三三、四〇・九〇	三、三九・七	一一、三六・四五	八八、三三・二	九三六・九四
一〇〇	一	四五	四〇	三

支拂状況

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	步 合 %
昭 和 三 年	三〇、二八五・九〇	五六、五〇六・五七	九〇、七九二・四七	四
昭 和 四 年	六、四九八・八七	一五、九三三・四八	二二、四三三・三五	一〇
昭 和 五 年	二二、四三三・三九	八四、七六一・六九	一〇八、一〇五・〇八	四九
計	六〇、一〇六・一六	一五七、二〇一・七四	二一七、三〇七・九〇	一〇〇

負擔別對照

負 擔 區 分	潰 地 面 積	比 率 %	市 水 道 局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		計	
			契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額
國 負 擔 幹 線 街 路 費	一〇、九二〇・〇〇	二九	三、六七一・三五	三、九四・三五	一六、二三・五九	一三、九八五・三六	一九、四九九・六三	一六、三五九・五三	六九、二四〇・四六	六四、二〇九・一六
補 助 線 街 路 費	九、八一〇・〇〇	二六	三〇、一三九・六〇	三〇、四〇〇・七一	一四、四五・六三	一一、五八・六三	一七、四八二・四三	一四、五七七・五一	六二、〇七七・六五	五七、五八・八四
土 地 整 理 費	一六、四三四・〇〇	四三	四九、八四六・二七	五〇、三三〇・七九	二二、九〇七・四〇	二〇、七三六・九四	二八、九三・二三	二四、一〇八・九六	一〇三、六六・九〇	九五、二〇六・六九
市 負 擔 小 公 園 費	八九〇・〇〇	二	二、三三八・四三	二、三四二・二六	一、一一・九七	九六四・五二	一、三四・八〇	一、一一・三四	四、七七五・一〇	四、四二八・二二
計	三六、〇三三・〇〇	七二	八二、一四〇・三〇	八三、一五三・六六	三九、四七五・〇〇	三三、二四〇・〇七	四七、七四〇・四四	三九、八七・八二	一五九・五九・三五	一五七、二〇一・七四
合 計	三六、〇三三・〇〇	一〇〇	一〇〇、二五九・二二	一〇〇、二七二・八二	五九、五八・五九	四八、三三・四五	六六、三〇〇・〇七	五九、〇〇六・三六	二二八、三三・三三	二二二、四〇・九〇



補償金對照

工 種	市 水 道 局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		計	
	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額
既設工作物と整理工 作物と一致せる部分	六、六〇三・五〇	六二、六三三・八七	三八、七三三・八三	三五、六八八・〇七	五四、八七三・三六	四九、五八三・四〇	一六三、二六〇・六九	一四七、九五三・三四
過不足分(一致せざる部分)	三、三三三・四五	三七、三九〇・五〇	一三、五八三・三三	九、五五五・七六	四、五〇〇・四八	二、四四〇・八九	五三、四七三・一六	四九、二六二・一五
累 計	三、五〇六・九六	一、一〇〇・三三	—	—	三、六七三・五〇	三、六四三・〇四	七、一七九・七六	四、七四三・五七
小 計	一〇八、四三三・三三	一〇〇、八三三・九〇	五三、三三〇・六六	四四、三三三・八三	六〇、三三三・四三	五三、〇七三・三三	三三、九三三・三三	三〇、七三三・〇六
附帶工事分(假工事を含む)	七、四八三・三三	一六、三四三・二二	三、二六六・五三	二、九九一・六二	六、二二七・三三	四〇〇・〇一	一六、八四七・五九	一九、六五八・八四
補 償 額 計	一一五、九一六・六六	一一七、一七八・一二	五六、五九七・一九	四六、三二五・四五	六六、五六〇・七六	五三、〇七三・三四	五〇、五九〇・九二	五〇、三九一・九〇

第二節 應急整理一工事

本地區に於ける應急整理一工事は件數二十七件整理費二千三百八十三圓五十三錢全部市負擔にして、昭和二年十二月十三日市電氣局關係工作物の整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局十一件金額六百十四圓八十四錢、市電氣局八件金額七百四十四圓六十二錢、東京電燈株式會社七件金額千十二圓七錢、參謀本部一件金額十六圓なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事種別

種 別	水 道		市 電		東 電		參 謀 本 部		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
電 柱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
道 路 工	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



本地區に於ける應急整理一工事は件數二十七件整理費二千三百八十三圓五十三錢全部市負擔にして、昭和二年十二月十三日市電氣局關係工作物の整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局十一件金額六百十四圓八十四錢、市電氣局八件金額七百四十圓六十二錢、東京電燈株式會社七件金額千十二圓七錢、參謀本部一件金額十六圓なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事種別

種別	水道		市電		東電		參謀本部		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
道路工	四ヶ所	六四・八四							四ヶ所	六四・八四
	計	六四・八四							四ヶ所	六四・八四
支障										
	計									
建築物移轉										
	計									
出入口										
	計									
其他										
	計									
合計	四ヶ所	六四・八四	一ヶ所	七三・二〇	一六本	一、〇二〇・七	一ヶ所	一六・〇〇	四ヶ所	六四・八四
	計	六四・八四	七三・二〇	一、〇二〇・七	一六・〇〇	六四・八四	四ヶ所	六四・八四	二、三八三・五三	



工事進捗状況

年 度	電 柱		其 他		計 歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額	
昭 和 二 年	一九本	二〇一・三 <sup>円</sup>	一 <sup>ヶ所</sup>	一 <sup>円</sup>	九
昭 和 三 年	六	一七・二	一〇	二六・八 <sup>三</sup>	一九
昭 和 四 年	一四	七九・〇八	一	三七・二 <sup>四</sup>	四七
昭 和 五 年	三	五五・七 <sup>七</sup>	一	一 <sup>一</sup>	二五
計	三三	一、七九・三七	四	六四・三 <sup>六</sup>	一〇〇

支拂状況

年 度	市 負 擔 歩 合 %	
	金 額	%
昭 和 二 年	二〇一・三 <sup>円</sup>	八
昭 和 三 年	三九・六 <sup>七</sup>	七
昭 和 四 年	八七・〇 <sup>二</sup>	七
昭 和 五 年	九四・四 <sup>三</sup>	六
計	二、三八三・五 <sup>三</sup>	一〇〇

第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は件數五十一件整理費一萬六千四百十圓七十八錢にして、昭和二年三月九日東京電燈株式會社關係工作物の整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局一件金額二千三百三十七圓五十三錢、東京電燈株式會社四十八件金額一萬三千七百二十五圓七十四錢、東京瓦斯株式會社二件金額三百四十七圓五十一錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。



昭 和 二 年	昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年	計
101,311 円	396,777	870,211	914,433	2,383,333
八	七	七	六	100

### 第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は件數五十一件整理費一萬六千四百十圓七十八錢にして、昭和二年三月九日東京電燈株式會社關係工作物の整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局一件金額二千三百三十七圓五十三錢、東京電燈株式會社四十八件金額一萬三千七百二十五圓七十四錢、東京瓦斯株式會社二件金額三百四十七圓五十一錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

#### 工 事 種 別

種 別	水 道		東 電		瓦 斯		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
障 交 通 支	電 柱	—	四〇〇本	11,700.74	—	—	四〇〇本	11,700.74
	管線路	—	四〇〇間	56.64	—	—	四〇〇間	56.64
其 の 他	電 柱	—	八ヶ所	295.45	—	—	八ヶ所	295.45
	管線路	—	—	—	—	—	—	—
計	電 柱	—	—	13,053.83	—	—	—	13,053.83
	管線路	—	—	599.04	—	—	—	599.04
其 の 他	電 柱	—	一六本	599.04	—	—	一六本	599.04
	管線路	—	—	—	—	—	—	—
計	電 柱	—	—	115.00	—	—	—	115.00
	管線路	—	—	—	347.51	—	—	347.51
其 の 他	電 柱	—	—	—	—	—	—	—
	管線路	—	—	—	—	—	—	—
計	電 柱	—	—	—	—	—	—	—
	管線路	—	—	—	—	—	—	—
電 柱	—	—	四六本	13,299.76	—	—	四六本	13,299.76
	—	—	—	—	—	—	—	—
管線路	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
其 の 他	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
電 柱	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
管線路	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
其 の 他	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—

第四十四地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



昭和五年	計	三・六	八,二六〇・九	一六,四〇・七	一〇〇
		一	八,二六八・〇	一六,三九七・三	五

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	步 合 %
昭和二年	三・六	七,九七・六	一五・二	四九
昭和四年	一	一五・六	一六・六	一

支拂狀況

年 度	電 柱		管 線 路		其 他		計	步 合 %
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
大正十五年	五本	一五・三	一	一	一ヶ所	一	一五・三	一
昭和二年	二	三五・〇	一	一	一	一	三五・〇	一
昭和三年	三	五七・六	一	一	一	一	五七・六	二
昭和四年	四七	二,五五七・七	四〇・八	二,七二・六	九	三〇四・五	一五,六八一・九	五
昭和五年	四六	二,二九七・六	四〇・八	二,七二・六	二	二四・八	一六,四〇・七	一〇〇

工事進捗狀況

合 計	管線路		其 他		計	步 合 %
	數量	金額	數量	金額		
管線路	二・八	二,三三七・五	四〇	五・六	四〇・八	二,七四二・六
其 他	一	一	一ヶ所	三九・三	一	三九・三
計	二,三三七・五	二,三三七・五	一	三九・三	二	一六,四四〇・七

第四十四地區

丙 地下埋設物其他工作物整理



計	四、三、九、六、八	二、四、一、六	二	三、九、三	一、六、四、六	一〇〇
---	-----------	---------	---	-------	---------	-----

支拂状況

年度	國負擔	市負擔	計	歩合%
昭和二年	一、五、一、六		一、五、一、六	一〇〇
昭和四年	三、六	七、九、七、三	七、九、一、三	四九

昭和五年	計	歩合%
八、一、六、〇、九	一、六、四、〇、六	五〇
三、六	一、六、三、七、三	一〇〇

第三章 私有管線處理

本地區に於ける私有管線整理工事に關する申請書の受付は大正十四年五月三日より之を開始し昭和五年七月十日迄に全部の受付を了したり、而して工事は大正十四年七月十一日之に著手しそれより順次建物移轉の進捗に伴ひ各種工作物の整理を爲し、昭和五年十二月十日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件數は一萬六百六十二件金額十五萬七千八百七十一圓十四錢にして、之を事業別に見るときは水道二千八百九十件金額七萬三千三百七十七圓十錢、東電五千三百三十九件金額四萬九千九百一十一圓十五錢、瓦斯千九百三十一件金額四萬二千五百五十九圓二十四錢、電話二件私設電話金額二十三圓六十五錢なり、尙建物一棟當りの裝置數を見るに水道〇・四五栓、電燈三・三六燈、瓦斯〇・三個計量器數なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年度	工事狀況			支拂狀況		
	件數	金額	歩合%	國負擔	市負擔	合計
大正十四年	一元	二七、三、一、四	一	—	—	—

第四十四地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第四十四地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

種別	水道		東電		瓦斯		斯電		電話		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	
大正十五年	六	九四七・〇九	一	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和元年	二七五	四,二八八・五三	二	九	—	—	—	—	—	—	—
昭和二年	八,八九三	一三六,一七六・二	七	二,二二八・八	—	—	—	—	—	—	—
昭和三年	九〇四	一四,〇四八・四一	八	一〇四	—	—	—	—	—	—	—
昭和四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
未濟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一〇,一三三	一七〇,八七二・四	一〇〇	七九三	二,三三三・三	△九,三三九 △三七六	△一四,二四七・八 △一三三	△一五,一八七・〇〇	△一五,一八七・〇〇	△一五,一八七・〇〇	一〇〇

備考 △印は再設費未支拂撤去費は支拂濟のもの。

前記の内事業者拂に屬するもの一萬八十件金額十三萬千二百六十五圓三十八錢にして、内國負擔七百九十三件金額一萬百二十五圓二十錢、市負擔九千二百八十七件金額十二萬千四百四十八圓十八錢なり、尙現金補償に屬するもの(移設費を含む)三千二百二十一件金額二萬六千六百五圓七十六錢にして、内國負擔二百八十七件金額二千四百九十八圓六錢、市負擔二千八百三十四件金額二萬四千七百七圓七十錢なり、其の負擔狀況を示せば左の如し。

事業者	種別	水道		東電		瓦斯		斯電		電話		計	
		件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額		
國負擔		二四二	五,七四五・〇七	三九	一,六二四・四三	一五三	二,七五五・七〇	—	—	—	—	七九三	一〇,一五五・一〇
市負擔		二,五九	五,九九六・〇三	四,九四〇	二六,七五二・七六	一,七八	三,四〇一・元	—	—	—	—	九,二八七	二二,一〇四・一八
計		二,八三〇	五,七三一・一〇	五,三三九	二八,三七七・一九	一,九三	三,一五七・〇九	—	—	—	—	一〇,〇八〇	二二,二五九・二八

合	計	現補金		再設費		移設費		國負擔		國負擔		計	
		市負擔	計	市負擔	計	市負擔	計	市負擔	計	市負擔	計		
現補金		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
再設費		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
移設費		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
國負擔		三	三三三・九二	一九〇	一,五〇七・七二	七五	六六・四二	—	—	—	—	二八七	二,四九八・〇六
再設費		一五九	五,三三九・七	一,九六九	二,〇六二・四	五四	四,七八五・七三	—	—	—	—	二,七五二	二二,〇四六・九四
移設費		二八一	五,六〇八・八九	二,一九	二,五三三・九六	五九	五,四〇一・五	—	—	—	—	三,〇三九	二二,四四四・〇〇
市負擔		八〇	二,〇三七・一一	—	—	—	—	—	—	—	—	八二	二,〇三〇・七六
國負擔		二四一	六,二八・九	三九九	三,一三二・五	一五	三,三七二・二	—	—	—	—	七三	二,〇三三・六
計		二,六九	七,二五八・二	四,九四〇	三六,七九〇・〇〇	一,七八	三,一八七・三	—	—	—	—	九,二八九	二四,四七四・八







四日市土木局下水課に承認せるを最終とし要求工事千七百七十五件、非要求工事二千五百五十件の許可又は承認を爲したり、其の狀況を示せば左の如し。

事業業者	一括占用許可		分割許可		承認	
	承認年月日	最初年月日	最終年月日	要求工事	非要求工事	計
市水道局	昭和二、二、九	昭和二、四、七	昭和五、一、三	三六三	三五七	七二〇
市土木局下水課	昭和二、二、六	昭和二、八、四	昭和五、一、二四	一	一三	一四
市電氣局	昭和二、三、一五	昭和三、二、二	昭和四、一〇、一五	二	八	一〇
東京電燈株式會社	昭和二、二、九	昭和二、四、一〇	昭和四、二、一九	一〇四	五	一〇九
東京瓦斯株式會社	昭和二、二、三	昭和二、七、三〇	昭和四、二、三	一、二六	二、一三	三、三九
遞信省		昭和四、一〇、八	昭和四、一〇、八	一	一	二
計				三六三	三五七	七二〇

第一 要求工事

本地區に於ける要求工事は千七百七十五件其の延長二萬八千七百六十九間五七、掘鑿面坪九千九十八坪一三にして、之を事業者別に見るときは市水道局三百八十三件其の延長一萬三千五百三十二間二六、掘鑿面坪四千三百四十一坪六一、市電氣局二件其の延長三間、掘鑿面坪一坪三九、東京電燈株式會社百四件其の延長四千五十四間六八、掘鑿面坪千四百三十七坪五六、東京瓦斯株式會社千二百八十六件其の延長一萬千七百七十九間六三、掘鑿面坪三千三百七十七坪五七なり、尙之を類別すれば大掘鑿百六十一件其の延長二萬三千九百三十八間五八、掘鑿面坪七千八百一坪三四、小掘鑿千六百十四件其の延長四千八百

三十間九九、掘鑿面坪千二百九十六坪七九なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿			小掘鑿			計		
		件數	延長	掘鑿面坪	件數	延長	掘鑿面坪	件數	延長	掘鑿面坪
昭和二年	市水道局	三	八九・九〇 <sup>間</sup>	三五・五 <sup>坪</sup>	一六	五五・六四 <sup>間</sup>	一三・九 <sup>坪</sup>	一九	一四五・五四 <sup>間</sup>	四九・四八 <sup>坪</sup>
	東京電燈株式會社	五	三五〇・〇〇	二五・四 <sup>坪</sup>	一	一	一	五	三五〇・〇〇	二五・四 <sup>坪</sup>
	東京瓦斯株式會社									
	計									





本地区に於ける要求工事は千七百七十五件其の延長二萬八千七百六十九間五七、掘鑿面坪九千九十八坪一三にして、之を事業者別に見るときは市水道局三百八十三件其の延長一萬三千五百三十二間二六、掘鑿面坪四千三百四十一坪六一、市電氣局二件其の延長三間、掘鑿面坪一坪三九、東京電燈株式會社百四件其の延長四千五十四間六八、掘鑿面坪千四百三十七坪五六、東京瓦斯株式會社千二百八十六件其の延長一萬千七百七十九間六三、掘鑿面坪三千三百七十七坪五七なり、尙之を類別すれば大掘鑿百六十一件其の延長二萬三千九百三十八間五八、掘鑿面坪七千八百一坪三四、小掘鑿千六百十四件其の延長四千八百

三十間九九、掘鑿面坪千二百九十六坪七九なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿		小掘鑿		計	
		件數	延長	掘鑿面坪	件數	延長	掘鑿面坪
昭和二年	市水道局	三	八九・九〇	三五・五七	一六	五五・六四	一三・九一
	東京電燈株式會社	五	三五〇・〇〇	一五・四六	—	—	—
	東京瓦斯株式會社	—	—	—	四	七五・二七	二三・五五
計	八	四三九・九〇	一五・〇三	三三	一三〇・八一	三六・四六	
昭和三年	市水道局	三	六六九・二〇	二九・〇四	三三	一、七四・八四	二九三・七一
	市電氣局	二	三〇〇	一・元	—	—	—
	東京電燈株式會社	六	三、〇七・二五	一、〇五八・四七	—	—	—
東京瓦斯株式會社	三	五三・九〇	一五・七二	五九	七五・三三	二四・六〇	
計	九	四、二六・三五	一、四三・三三	八七	一、八九〇・一七	五〇八・三三	
昭和四年	市水道局	一四	九、七三・〇〇	三、三四・四六	一七	一、八九・六八	四四・九二
	東京電燈株式會社	三	六三・五三	一六三・六三	—	—	—
	東京瓦斯株式會社	一四	八、八六・九〇	二、六三〇・六〇	六八	九〇・三三	二九七・二〇
計	三〇	一九、二三・四三	六、二八・六九	七五	二、八〇・〇一	七三三・〇三	
市水道局	二元	一〇、四八・一〇	三、五九・〇七	三五	三、〇〇・一六	七六・二五	
市電氣局	二	三〇〇	一・元	—	—	—	
計	二元	一〇、七八・一〇	三、五九・〇七	三五	三、〇〇・一六	七六・二五	
市水道局	二元	一〇、四八・一〇	三、五九・〇七	三五	三、〇〇・一六	七六・二五	
市電氣局	二	三〇〇	一・元	—	—	—	
計	二元	一〇、七八・一〇	三、五九・〇七	三五	三、〇〇・一六	七六・二五	





合 計	昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		支拂未済		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	
東京電燈株式會社	一〇四	四、〇五八・六	—	—	—	—	—	—	一〇四 四、〇五八・六
東京瓦斯株式會社	二六	九、五九八・〇	二、七三三・三	二、六〇一、七〇八・三	五、四一五・二	二、八六一、七九六・三	—	—	二六 九、五九八・〇
計	一三〇	一三、六五六・六	二、七三三・三	二、六〇一、七〇八・三	五、四一五・二	二、八六一、七九六・三	—	—	一三〇 一三、六五六・六

前記要求工事千七百七十五件の内道路後修を要したるもの千百九十八件金額一萬九千五十一圓十一錢ありたり、其の支拂狀況を示せば左の如し。

事 業 者	昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		支拂未済		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	
市 水 道 局	八五	八、八〇二・〇	三	二、八五〇・三	六	一、三三七・〇	—	—	八五 八、八〇二・〇
市 電 氣 局	一	四、七五	—	—	—	—	一	四、七五	一 四、七五
東京電燈株式會社	三	四、二六八	三	一、〇五三・三	七	二、四八五・三	—	—	三 四、二六八
東京瓦斯株式會社	二六	三、六八四・一	八	三、五〇三・七	七	一、三六六・一	—	—	二六 三、六八四・一
計	一一五	一六、五〇七・一	一四	七、四〇七・三	一六	五、一六九・六	一	四、七五	一一五 一六、五〇七・一

第二 非要求工事

本地區に於ける非要求工事は二千五百五十件其の延長一萬九千九百九十六間四九、掘鑿面坪八千九百十五坪六にして、之を事業者別に見るときは市水道局三百五十七件其の延長四千二百八十四間五七、掘鑿面坪千二百二十二坪〇九、市土木局下水課十三件其の延長二千七百七十間〇五、掘鑿面坪三千四百二十

五坪六七、市電氣局八件其の延長千五百二十三間三二、掘鑿面坪九百三十九坪一六、東京電燈株式會社五十九件其の延長九百二十七間一八、掘鑿面坪三百九十二坪七五、東京瓦斯株式會社二千百十二件其の延長九千三百六十一間一七、掘鑿面坪二千七百十八坪、遞信省一件其の延長三百三十間二、掘鑿面坪二百十七坪九三なり、尙之を類別すれば大掘鑿百六十件其の延長一萬二千三十四間三八、掘鑿面坪六千八百九十二坪九四、小掘鑿二千三百九十件其の延長七千六百六十二間一一、掘鑿面坪二千二十二坪六六なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。



東京瓦斯株式會社	二六、三六八・四一	八六〇	三、五〇三・七九	七	一三、六五六・一四	一五	—	—	八三九	四、五六・三四
計	三〇五、八〇三・八六	四、八七三	一五、八四〇・〇四	八三	一六、二二五・一六	二二	四、一八二・五三	—	一一、一九八	九、〇五二・一一

第二 非要求工事

本地區に於ける非要求工事は二千五百五十件其の延長一萬九千九百九十六間四九、掘鑿面坪八千九百五十五坪六にして、之を事業者別に見るときは市水道局三百五十七件其の延長四千二百八十四間五七、掘鑿面坪千二百二十二坪〇九、市土木局下水課十三件其の延長二千七百七十間〇五、掘鑿面坪三千四百二十

五坪六七、市電氣局八件其の延長千五百二十三間三二、掘鑿面坪九百三十九坪一六、東京電燈株式會社五十九件其の延長九百二十七間一八、掘鑿面坪三百九十二坪七五、東京瓦斯株式會社二千百十二件其の延長九千三百六十一間一七、掘鑿面坪二千七百十八坪、遞信省一件其の延長三百三十間二、掘鑿面坪二百十七坪九三なり、尙之を類別すれば大掘鑿百六十件其の延長一萬二千三十四間三八、掘鑿面坪六千八百九十二坪九四、小掘鑿二千三百九十件其の延長七千六百六十二間一一、掘鑿面坪二千二十二坪六六なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿		小掘鑿		計				
		件數	延長	掘鑿面坪	件數	延長	掘鑿面坪			
昭和二年	市水道局	一	三九・五〇	一九・七五	二	九六・九三	二四・三三	二	一、一六・四二	四三・九
	市土木局下水課	一	四二・六〇	八七・四三	—	—	—	—	四二・六〇	八七・四三
	市電氣局	四	三五四・〇七	四五・八八	—	—	—	—	三四五・〇七	四五・八八
	東京電燈株式會社	四	三四・八五	二〇・七七	—	—	—	—	三四・八五	二〇・七七
計	一〇	一、一〇三・五三	一、四四・四三	—	—	—	—	一、一〇三・五三	一、四四・四三	
昭和三年	市水道局	五	五三・九〇	一七・二三	—	—	—	—	—	—
	東京電燈株式會社	二〇	一一二・二〇	五・六〇	—	—	—	—	一一二・二〇	五・六〇
	東京瓦斯株式會社	七	四七・七〇	一九・六八	—	—	—	—	四七・七〇	一九・六八
	計	三三	一六八・八〇	二六・八二	—	—	—	—	一六八・八〇	二六・八二
計	三三	一六八・八〇	二六・八二	—	—	—	—	一六八・八〇	二六・八二	







計	信	省	一	一	一	一	一	一
一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三
一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三
一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三
一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三
一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三
一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三
一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三
一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三
一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三	一、〇二〇・〇〇	三、〇〇〇	二七・九三

第三 道路臺帳

道路臺帳は昭和五年七月三十一日之が作成を了し市土木局に引繼を爲せり、其の臺帳記入工作物は電柱九百七十九本、管線路三萬九千七百二十九間九九にして、之を類別すれば新設せるもの電柱五百五十四本、管線路二萬七千四百一問五九、撤去せるもの電柱四百二十五本、管線路六千九百九十七間二、埋殺せるもの六千三百一問二なり、其の事業別數量を示せば左の如し。

種別	新設		撤去		埋殺		計
	間	本	間	本	間	本	
水道	一〇、四三・三二		一、八四・九一		一、八六・二〇		一四、〇三・四三
電柱	二、七〇・〇五	二二本	三、八三	四本			二、七〇・〇五
電電	六、四四・二九	五三本	九一・〇九	三本			一、四三・六八
市電	二、六八・三三						二、六八・三三
市電	三、〇〇・一〇						三、〇〇・一〇
信	一〇、五三・五〇		三、五八・八〇		四、三五・〇〇		一八、四三・三〇
瓦	五、四〇・五九	五本	六、一七・二〇	四本	六、一三・二〇		三九、七九・九
計							



姓名	籍貫	年次	學歷	職業	備註
張文	廣東	1910	中學	...	...
李四	福建	1915	小學	...	...
王五	浙江	1920	大學	...	...
趙六	山東	1925	中學	...	...
陳七	湖南	1930	小學	...	...
周八	四川	1935	大學	...	...
吳九	江蘇	1940	中學	...	...
孫十	安徽	1945	小學	...	...
...	...	...	...	...	...

中華民國三十三年...



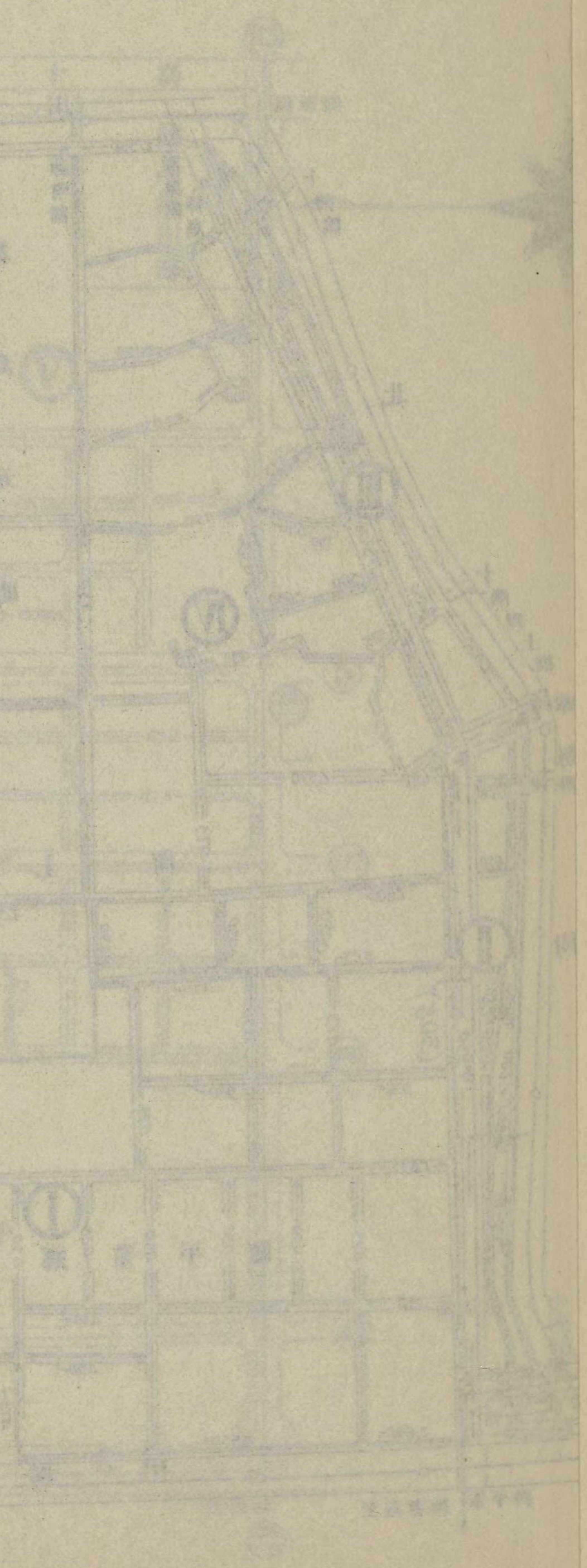
第四十五地區

A faint grid table is visible on the right page, likely a continuation of a table from the previous page. The grid consists of approximately 10 columns and 10 rows. The text within the cells is extremely faint and illegible, but the structure suggests a data table or a list of items organized in a grid format.



圖說

(附圖)

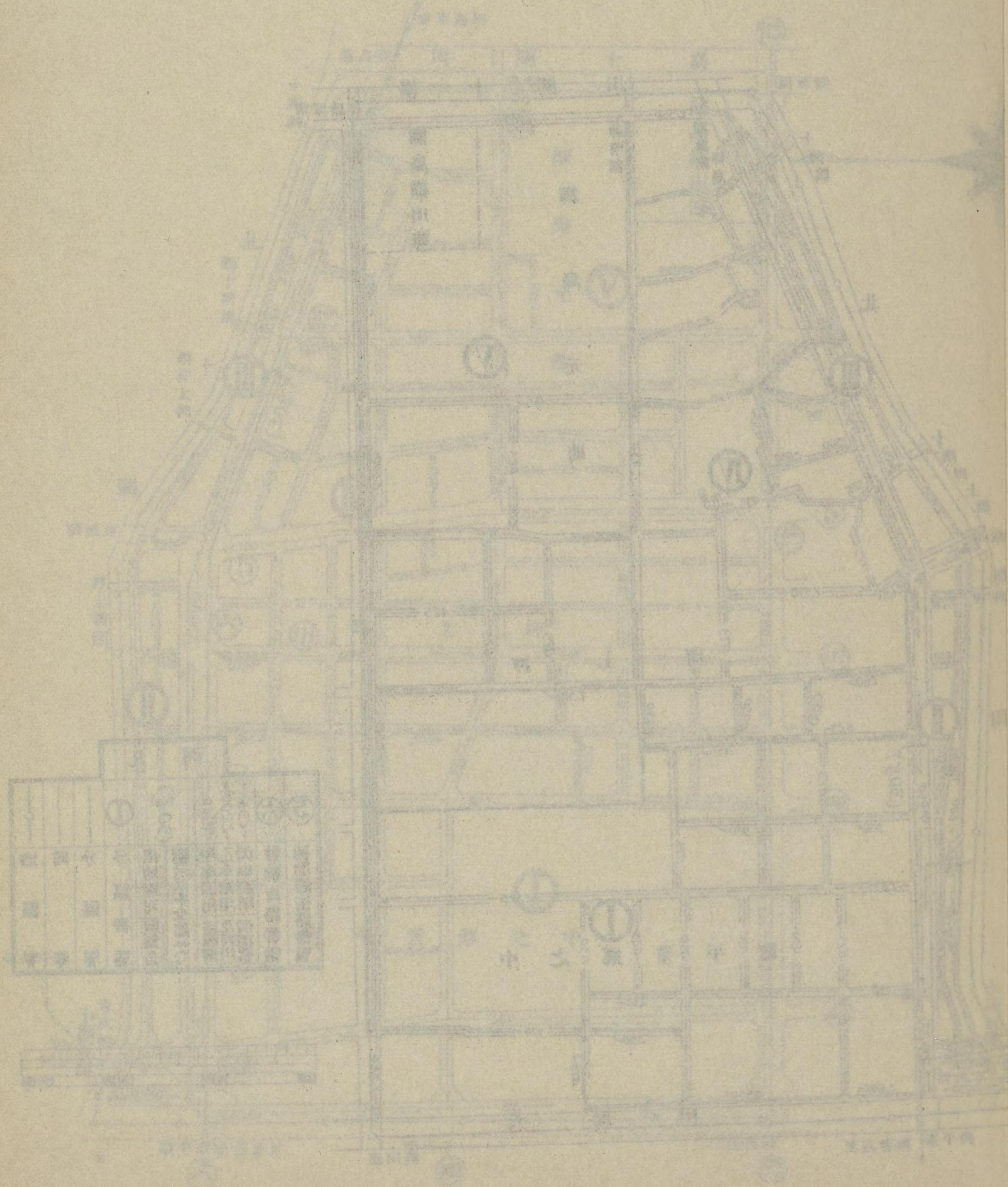


第四十五圖



國策中興一校式圖

(後堂理四第節)





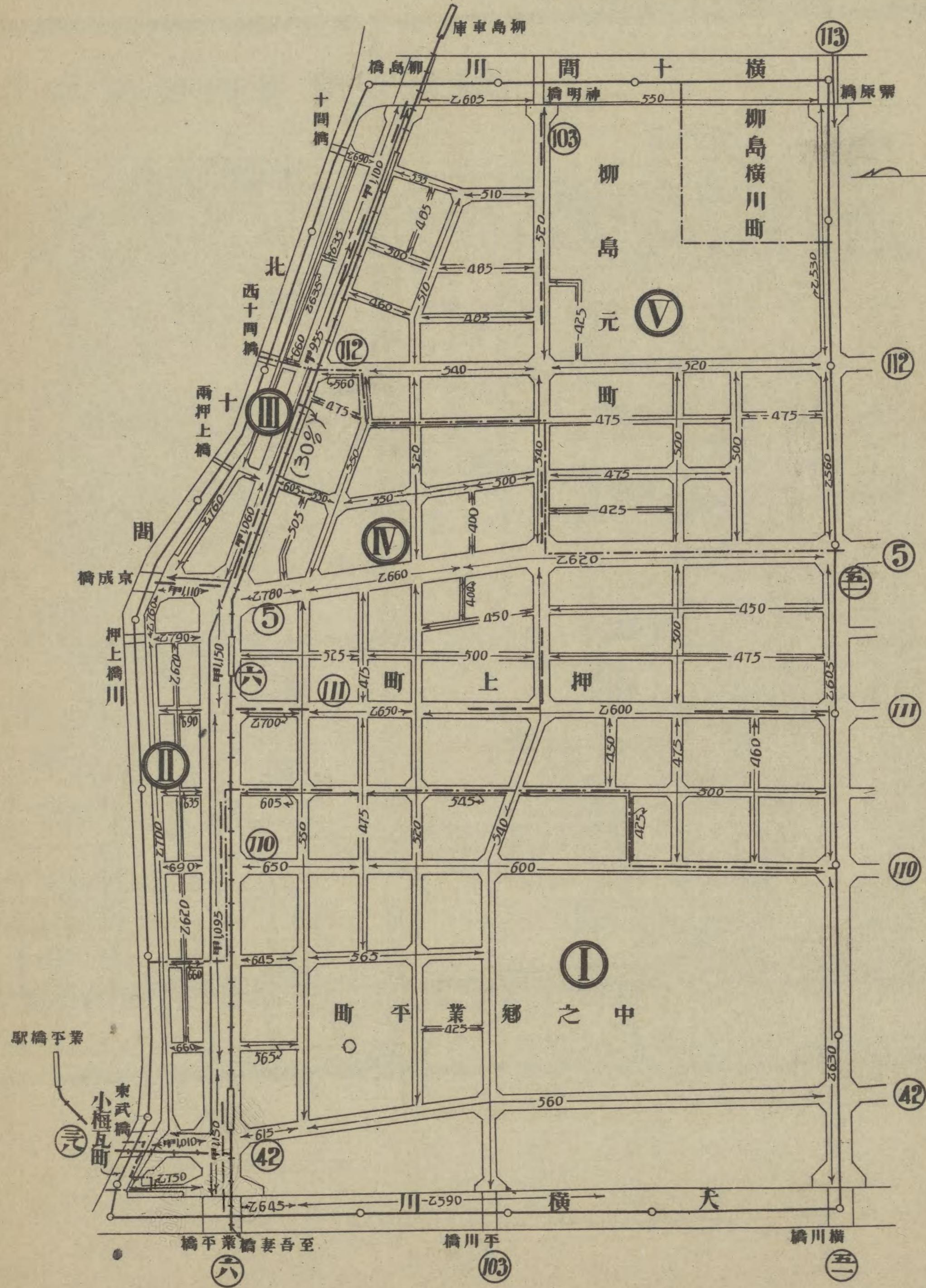




# 第四十五區整理前後概況圖

(後整理)

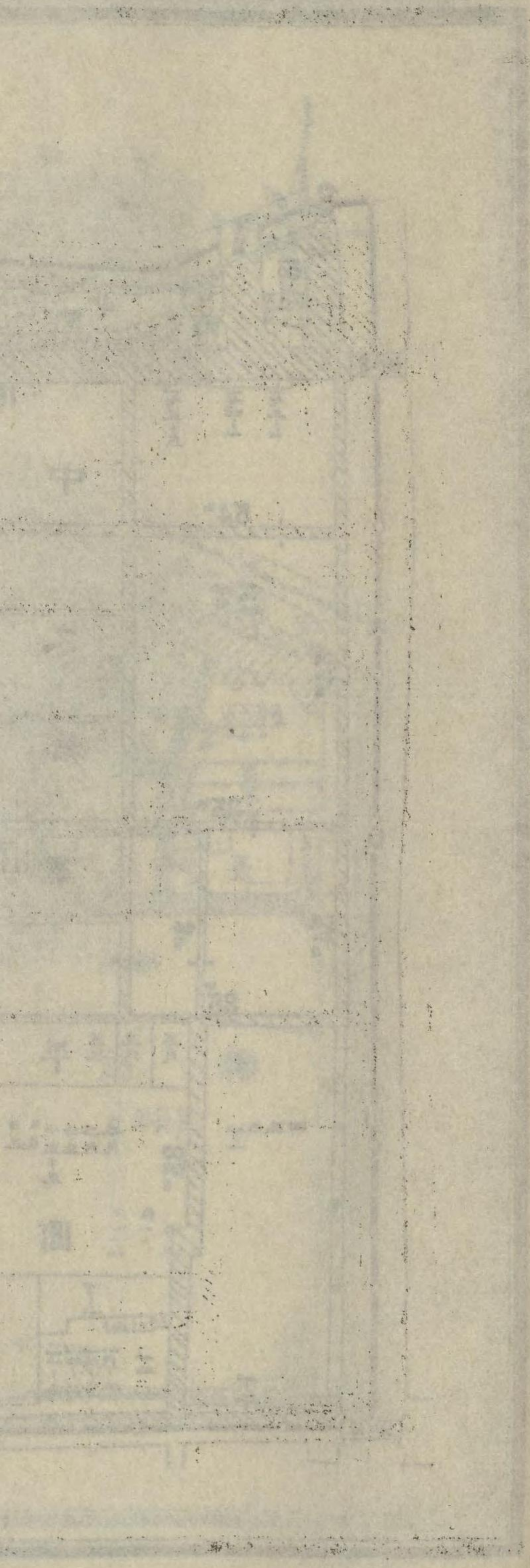
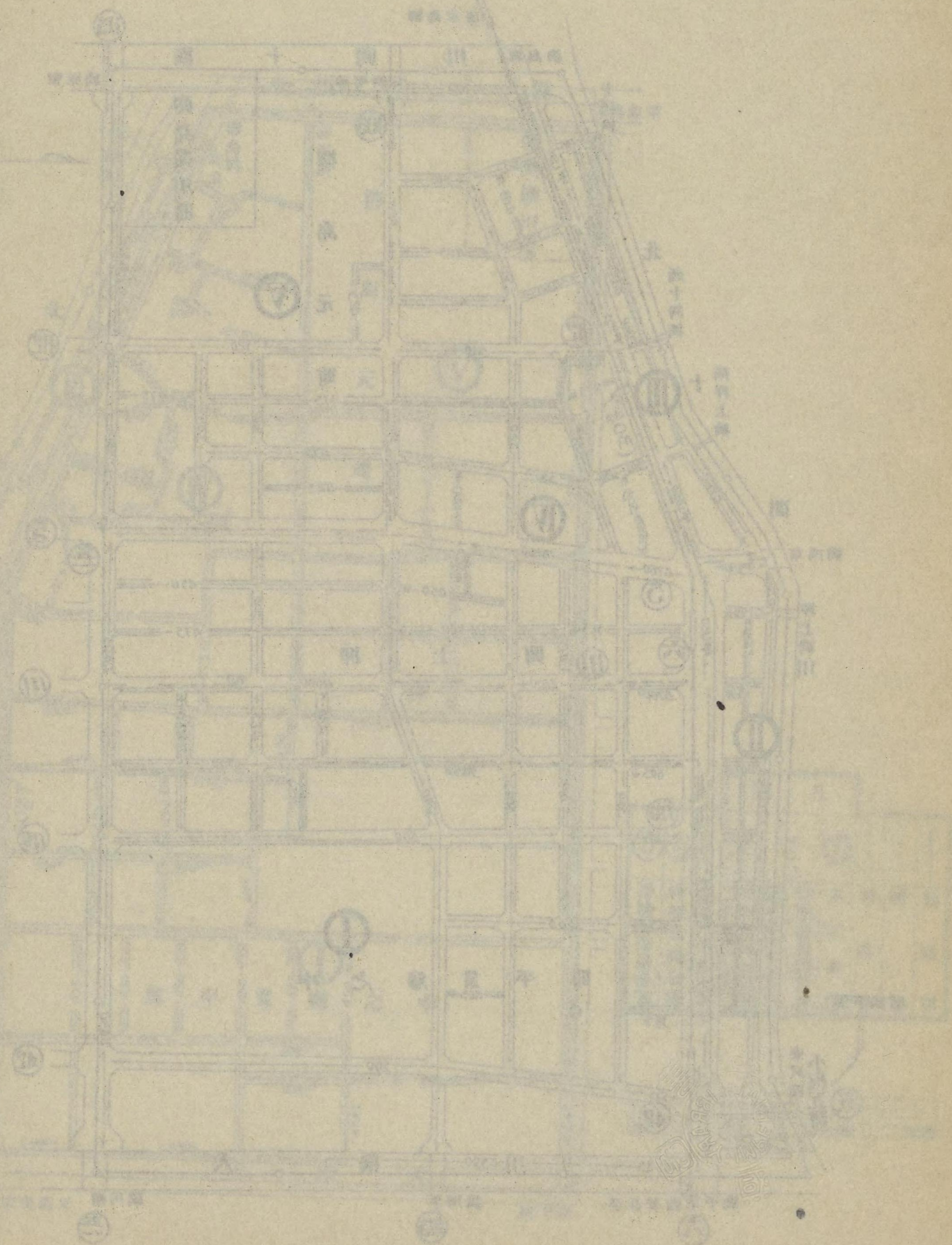
(前整理)



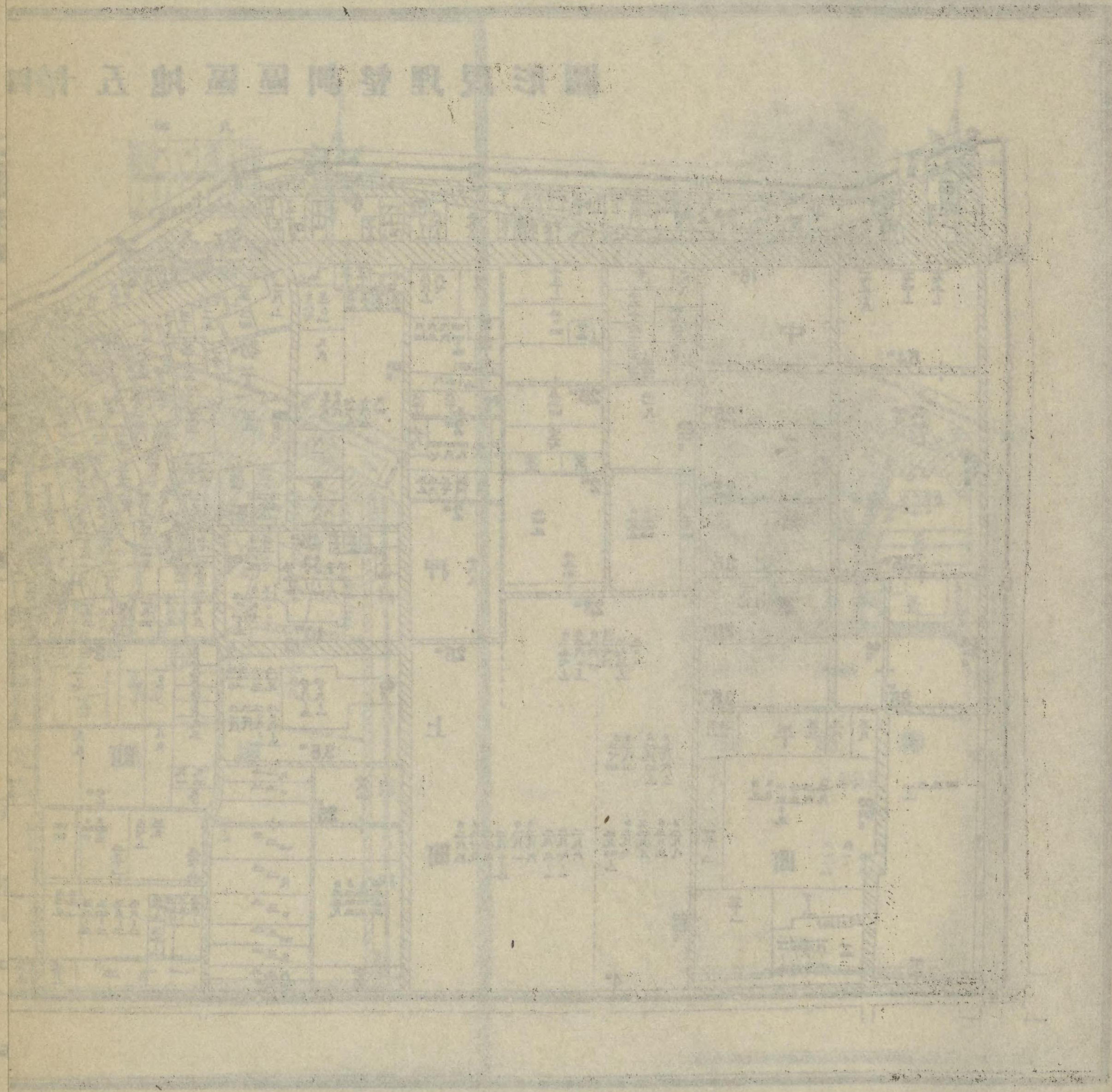


關國庫券隨興

(券豐油)







圖說五洲圖說圖說

圖說五洲圖說

(第一卷)

















# 第四十五區地換地位置決定圖

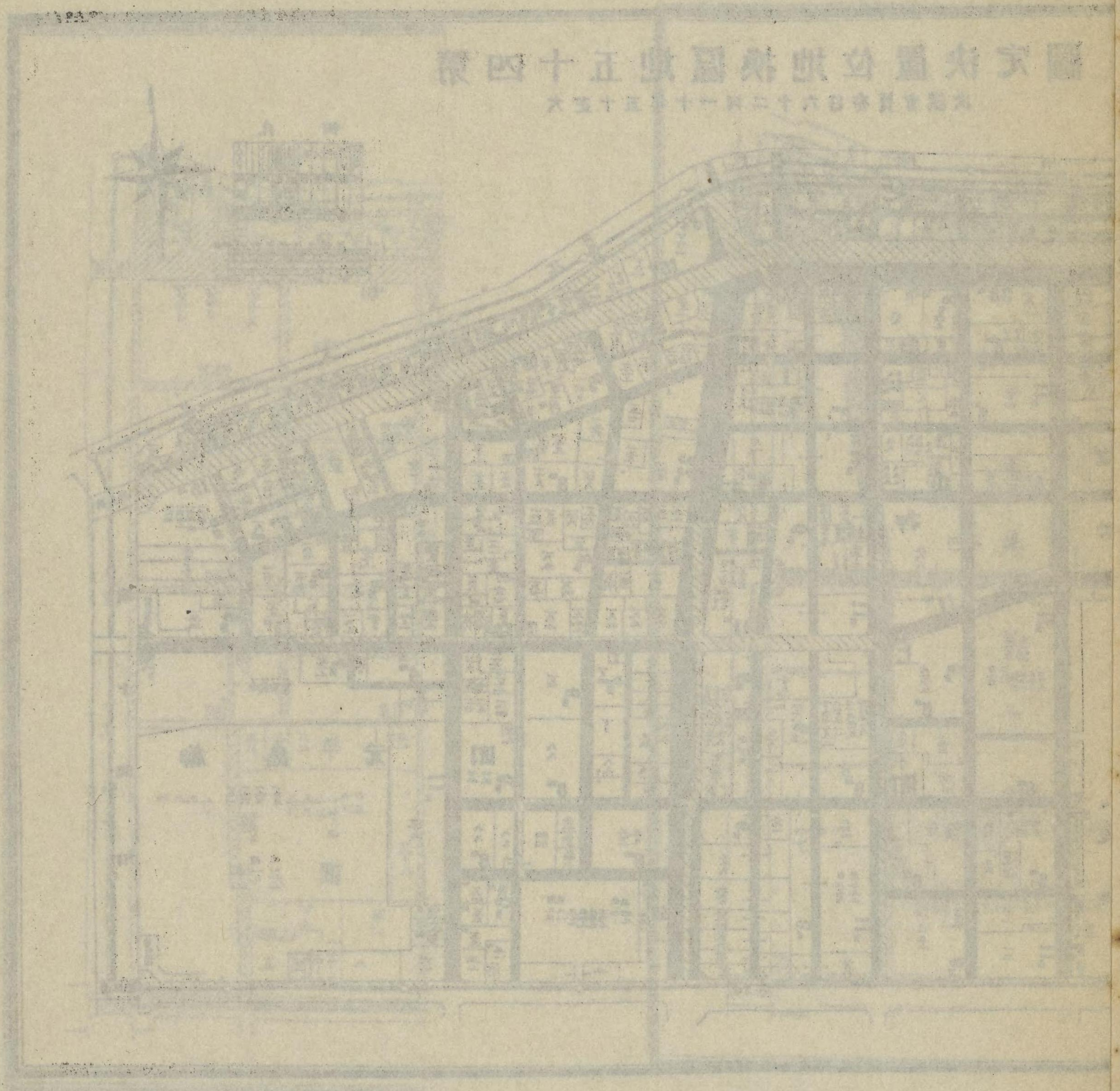
大正十五年十一月二十六日委員會議決





### 整理前地区の概況

本地区は本所区の東北部に位し、柳島横川町の一部、柳島元町、押上町、中ノ郷業平町、小梅瓦町の一部を包括し、東は横十間川を隔て、区劃整理地域外南葛飾郡龜戸町大字柳島に、北は北十間川を界して同地域外本所区向島押上町に相對し、西は大横川を隔て、第四十四地区中ノ郷八軒町、小梅業平町及中ノ郷横川町に面し、南は第四十八地区







### 整理前地區の概況

本地區は本所區の東北部に位し、柳島横川町の一部、柳島元町、押上町、中ノ郷業平町、小梅瓦町の一部を包括し、東は横十間川を隔て、區劃整理地域外南葛飾郡龜戸町大字柳島に、北は北十間川を界して同地域外本所區向島押上町に相對し、西は大横川を隔て、第四十四地區中ノ郷八軒町、小梅業平町及中ノ郷横川町に面し、南は第四十八地區柳島梅森町及柳島横川町に隣接す、地形は東西に長く南北に短き長方形を爲し、地勢低濕にして降雨に當り浸水を見ること尠からず、本地區の總面積は十五萬八千六百三十八坪六合一勺にして、之に所在する建物總棟數は三千八百三棟なり、地區内業平橋より柳島橋に至る電車通、押上町京成橋通及中ノ郷業平町の淺草驛前通は何れも商店櫛比して交通最も頻繁なり、而して本地區一帯には幾多の大會社工場等集團し、住宅小商店其の間に介在せり、柳島元町には東京市柳元尋常小學校、法性寺、第一製菓株式會社、東京帽子株式會社、栗原紡績合名會社等、押上町には徳正寺、最教寺、大雲寺等、中ノ郷業平町には東京市業平尋常小學校、眞盛寺、大法寺、日東製氷株式會社、日本石油株式會社、社業平倉庫、大日本自轉車株式會社、大正製氷株式會社及三田土ゴム製造株式會社等あり。



# 甲 整地

## 第一章 土地區劃整理委員會

### 第一節 委員

#### 第一 土地區劃整理委員及同補闕委員の選舉

第四十五地區土地區劃整理委員並同補闕委員の定數は各十八人にして、其の選舉を大正十三年八月十九日本所區役所に於て執行したるに、何れも左記の通常選したり。

#### 一 土地區劃整理委員

土地所有者の部

大澤 欽治	延澤虎次郎	田中信太郎	小宮 龜	加藤正信
佐野 廣中	勝倉 佐平	大塚金太郎	西尾忠方	

借地権者の部

坂間好之助	勝倉平次郎	小宮万次郎	大村三之助	黒澤俊而郎
山田 勘藏	勝倉 岩吉	田中和作	木村伊之助	

#### 二 同上補闕委員

土地所有者の部

小宮千太郎	勝倉猶次郎	西城龍童	荒木作藏	小宮甲次郎
小宮賢三郎	成川兵治郎	小宮孫兵衛	小宮金兵衛	

借地権者の部

根本 正	岩 田 愨	早矢仕信次郎	田中勝十郎	萩原欽也
榊原啓一郎	青木米藏	瀬 尾 砂	宮下八五郎	

#### 第二 議長並副議長の選舉

大正十三年九月十六日本所區役所に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長大村三之助議長並副議長の選舉を執行したるに、左記の通常選せり。

議長	大澤 欽治	副議長	延澤虎次郎
----	-------	-----	-------



二 同上補闕委員

土地所有者の部

坂間好之助	勝倉平次郎	小宮万次郎	大村三之助	黒澤俊而郎
山田勘藏	勝倉岩吉	田中和作	木村伊之助	
小宮千太郎	勝倉猶次郎	西城龍童	荒木作藏	小宮甲次郎
小宮賢三郎	成川兵治郎	小宮孫兵衛	小宮金兵衛	

借地権者の部

根本正	岩田 愨	早矢仕信次郎	田中勝十郎	萩原欽也
榊原啓一郎	青木米藏	瀬尾 砂	宮下八五郎	

第二 議長並副議長の選挙

大正十三年九月十六日本所區役所に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長大村三之助議長並副議長の選挙を執行したるに、左記の通常選せり。

議長	大澤 欽治	副議長	延澤虎次郎
----	-------	-----	-------

第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至る迄左の通り異動したり。

- 一 借地権者選出委員黒澤俊而郎死亡したるに因り、大正十五年一月十九日同補闕委員根本正補充せらる。
- 二 借地権者選出委員根本正死亡したるに因り、大正十五年五月四日同補闕委員岩田愨補充せらる。

第二節 諮問及答申

一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は大正十四年七月十日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し六月三十日限り東京市役所へ出願したる者にして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

右大正十四年六月一日諮問 同日原案可決の上答申

二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

第四十五地區 甲 整地



大正十四年六月一日委員會に諮問 委員會六回 協議會二十回開催 大正十四年十月二十日より大正十五年十一月二十六日迄四回に修正決議の上大正十五年十一月二十八日一括答申

議事要綱

本案審議中偶々京成電氣軌道延長問題起り、委員會は之を以て土地區劃整理の根本を破壊し且其の進捗を阻害し、加ふるに住居の安定を脅威するものとなし、該軌道延長問題解決に至る迄本案の審議を中止するの決議を爲したり、是より先京成電氣軌道株式會社に在りては、同社線を曳舟驛より分岐し、京成橋の東部を南下し更に幹線第六號の南部を該幹線に並行して西走し、第四十四地區を貫き隅田川を渡りて淺草區材木町二十二番に至る延長を企て、東京府に電氣軌道支線敷設特許申請を爲せるを以て、東京府は之に關する東京市の意見を徵せり、之を傳聞したる本所區内地元民は該京成電氣軌道の延長に反對し、本所區會に於ても同様該軌道延長を以て本所區の復興を阻害する旨の決議を爲し其の旨陳情せり、而して東京市會は本市の現狀に鑑み該軌道延長案は許可すべからざる旨決議する所あり、是に於て本地區の整理委員會は議事進行上安定を得、審議の結果一部修正の上決議したり。

三 諮問第三號の一 同潤會より本建築出願に對する換地面積假決定に關する件(柳島元町十番ノ二)

大正十四年八月十日諮問 同日原案可決の上答申

四 諮問第三號の二 整理前路線價指數竝土地各筆坪當指數に關する件(地區全部)

大正十四年十月二十四日諮問 委員會二回 協議會九回開催 大正十五年二月九日修正決議の上答申

議事要綱

本案は審議に當り 一、宅地造成と指數の關係 二、墓地の評價に加ふる達觀の程度 三、一筆の面積大なるものに對する評價等に關し相當異議出でたるも、結局墓地は普通宅地より一割を減じ、他

は適宜達觀を加ふることとして議決したり。

五 諮問第四號の一 換地面積決定に關する件(柳島元町の一部、中ノ郷業平町の一部)

大正十五年二月九日諮問 同日原案可決の上答申

六 諮問第四號の二 換地面積決定に關する件(中ノ郷業平町の一部)

大正十五年三月二十二日諮問 同日原案可決の上答申

議事要綱



大正十四年八月十日諮問 同日原案可決の上答申

四 諮問第三號の二 整理前路線價指數並土地各筆坪當指數に關する件 (地區全部)

大正十四年十月二十四日諮問 委員會二回 協議會九回開催 大正十五年二月九日修正決議の上答申

議事要綱

本案は審議に當り 一、宅地造成と指數の關係 二、墓地の評價に加ふる達觀の程度 三、一筆の面積大なるものに對する評價等に關し相當異議出でたるも、結局墓地は普通宅地より一割を減じ、他

は適宜達觀を加ふることとして議決したり。

五 諮問第四號の一 換地面積決定に關する件 (柳島元町の一部、中ノ郷業平町の一部)

大正十五年二月九日諮問 同日原案可決の上答申

六 諮問第四號の二 換地面積決定に關する件 (中ノ郷業平町の一部)

大正十五年三月二十二日諮問 同日原案可決の上答申

議事要綱

本件は東京地方專賣局敷地豫定地たる材料置場の換地面積決定案にして、曩に地元民の反對に依り紛糾したりしも種々折衝の結果、換地位置決定審議に際し解決したるを以て、之に據る換地面積案を委員會に提出し可決したり、其の經緯左の如し。

内務省は富士紡績株式會社所有に係る中ノ郷業平町二百五十七番ノ一、二百七十番、二百八十二番ノ一、其の面積一萬五千九百四十一坪一合九勺を、大正十三年十月九日同會社より買收して材料置場の地目とせり、然るに淺草區南元町所在の大藏省東京地方專賣局工場之に移轉すべしとの風説流布せらるゝに及び、土地區劃整理委員會及地區民は土地の繁榮を阻害するものとし、大正十四年四月委員會議長其の他の連署を以て當局に質問書を提出せり、其の趣旨に依れば内務省材料置場と稱するものは地區總面積の一割以上を占むる廣大なる土地にして、或は東京地方專賣局の工場となるものと傳へられ、何等減歩を加へらるゝなく地區民の利益を無視すること甚だし、故に之を本地區以外に移すべしと謂ふにあり、之に對し當局は同年六月一日委員會に於て内務省所屬材料置場は將來大藏省に移管せられ、東京地方專賣局となるの豫定にして、事業の關係上專賣局を他へ移動し得ざるのみならず、且其の面積を減少すること能はざるも、之が爲め地區全體の減歩率を高むることなき様、別に潰地充



當用として宅地を買収すべき旨を説明せり、然るに同年十月二十四日委員會に於ては、同專賣局敷地の北側即ち補助線第百三號に面し延長約百九十米、同敷地の東側即ち補助線第百十號に面し延長約二百六十九米の間、奥行各九米、其の面積約千二百六十五坪を一般民地の換地と爲すことを主張したり、是に於て當局は大藏省と協議の上、大體に於て委員會の希望を容れ換地案を作成することとし、同專賣局敷地の北側及東側に民地を指定したる結果、同敷地は一萬四千五百八十九坪二合五勺となり豫定坪數に不足を生じたる爲、此の不足分は補助線第四十二號を、括みて大横川に沿ひ千四百九十一坪一合三勺を換地したるを以て、同局敷地の換地面積合計一萬六千七十坪三合八勺となれり、依て之に基き作成したる本案を大正十五年三月二十二日整理委員會に提出し、委員會は審議の結果之を可決したり。

七 諮問第四號の三 換地面積決定に關する件 (押上町、中ノ郷、業平町の各一部)

大正十五年六月二十八日諮問 同日原案可決の上答申

八 諮問第四號の四 換地面積決定に關する件 (中ノ郷、業平町、押上町、柳島元町の各一部)

大正十五年十一月二十六日諮問 同日原案可決の上答申

九 諮問第五號 換地位置變更に關する件 (押上町の一部)

大正十五年六月二十八日諮問 同日原案可決の上答申

一〇 諮問第六號 換地面積變更に關する件 (柳島元町の一部)

大正十五年六月二十八日諮問 同日原案可決の上答申

一一 諮問第七號 換地位置及面積一部變更に關する件 (押上町及中ノ郷、業平町の各一部)

昭和四年十月十四日諮問 同日原案可決の上答申

一二 諮問第八號 整理前土地各筆平均坪當指數一部變更に關する件 (各町の各一部)

昭和四年十一月二十八日諮問 同年十二月二十四日原案を更正 委員會二回 協議會四回開催  
昭和四年十二月二十四日原案可決の上答申

一三 諮問第九號 換地位置及面積一部變更に關する件 (各町の各一部)

昭和四年十一月二十八日諮問 同日原案可決の上答申

一四 諮問第十號 土地各筆清算に關する件

昭和四年十一月二十八日諮問 同年十二月二十四日原案を更正 委員會二回 協議會九回開催

昭和四年十二月二十四日原案可決の上答申



- 大正十五年六月二十八日諮問 同日原案可決の上答申
- 一〇 諮問第六號 換地面積變更に関する件 (柳島元町の一部)
- 大正十五年六月二十八日諮問 同日原案可決の上答申
- 一一 諮問第七號 換地位置並面積一部變更に関する件 (押上町及中ノ郷業平町各一部)
- 昭和四年十月十四日諮問 同日原案可決の上答申
- 一二 諮問第八號 整理前土地各筆平均坪當指數一部變更に関する件 (各町の各一部)

昭和四年十一月二十八日諮問 同年十二月二十四日原案を更正 委員會二回 協議會四回開催  
昭和四年十二月二十四日原案可決の上答申

一三 諮問第九號 換地位置及面積一部變更に関する件 (各町の各一部)

昭和四年十一月二十八日諮問 同日原案可決の上答申

一四 諮問第十號 土地各筆清算に関する件

昭和四年十一月二十八日諮問 同年十二月二十四日原案を更正 委員會二回 協議會九回開催  
昭和四年十二月二十四日原案可決の上答申

一五 諮問第十一號 換地位置及面積一部變更に関する件

昭和五年一月二十四日諮問 委員會一回 協議會二回開催 同日原案可決の上答申

一六 諮問第十二號 換地處分に關する件

昭和五年一月二十四日諮問 委員會一回 協議會二回開催 同日原案可決の上答申

議事要綱

本案審議の結果左記條件を附し原案の通決議せり。

記

換地説明書及關係圖面中誤謬ありたる場合は再び本委員會に諮問することなく、當局に於て速に相當處理せらるゝこと。

一七 諮問第十三號 補償金配當に関する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合は補償總指數を特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依る各權利の整理前指數に按分したる率に依らむとす、但し左記の土地に對する配當の額は整







## 第二章 整理前土地の状況

本地區の總面積は十五萬八千六百三十八坪六合一勾にして、内宅地面積十三萬七百九十七坪一合二勾、公共用地面積二萬七千八百四十一坪四合九勾なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合

は宅地八割二分四厘、公共用地一割七分六厘なり、宅地内借地面積は五萬七千五百八十二坪三合九勾にして、其の宅地面積に對する割合は四割四分なり。

本地區に於ける街路及河川の分布状況を述べれば左の如し。

### 一 主要街路

地區の北部を東西に柳島橋より業平橋に至る電車通は幅員約九間なり。

### 二 其の他の街路

横十間川に架設せる栗原橋より西走し横川橋に至る通稱北割下水通は、街路の中央に幅員約一間の溝渠を有し兩側街路の幅員約三間半なり、京成電車押上驛より京成橋を渡り、北十間川に沿ひて東走し、更に柳島橋畔より横十間川に沿ひ、南下して北割下水通に至る街路は幅員一間半乃至四間、押上橋より電車通を横切り押上町を南走し、柳島梅森町方面に通ずる街路は幅員一間半乃至三間、其の他の街路は曲折甚だしく且幅員狹隘にして交通頗る不便なり、殊に柳島元町及押上町の一部の如きは往時の耕作道を多少改修したるに過ぎざるを以て、其の配置構造極めて不完全なり。

### 三 河 川

大横川は地區の西端に在りて幅員十七間乃至十九間、深度三尺六寸にして水運の便多し、河心を地區界とす、北十間川は地區の北端に在りて西方源森川に連り幅員八間乃至十間、深度一尺二寸、貨物運搬上の利便大にして河心を以て地區界とす、横十間川は地區の東端に在りて、幅員十一間、深度二尺四寸、干潮時に舟運の便を缺き、満潮時にあらざれば大貨物の運搬不可能の状態にして、河心を地區界とす。



### 第三章 計畫の概要

#### 第一節 街路運河及小公園計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路、運河及小公園左の如し。

##### 第一 幹線街路

第六號線は新設駒形橋方面より業平橋を経て押上町に至り、補助線第五號起點に終る幅員三十三米の街路にして、一部分は在來電車の兩側に、大部分は南側に擴張せり、第三十八號線は中ノ郷業平町に於て幹線第六號より分岐し、北へ東武橋を渡り東武鐵道淺草驛方面に至る幅員二十二米の街路にして、在來道路を改修し街角を剪除せり、幹線第五十一號は第四十八地區界にある通稱北割下水通の中央部の開渠を暗渠となしたる幅員二十二米の街路なり。

##### 第二 補助線街路

第五號線は押上町に於て幹線第六號の終點より南走する幅員二十二米の街路にして新設せり、第四十二號線は中ノ郷業平町に於て幹線第三十八號起點南側より南走して幹線第五十一號を横切る幅員十五米の新設街路なり、之に並行せる第一百十號線、第一百十一號線、第一百十二號線は何れも其の幅員十一米にして、第一百十一號線は在來道路を東側に擴張し、他の二線は新設なり、第一百三號線は原庭町方面より平川橋を渡り地區の中部を東走して神明橋に至る幅員十一米の街路にして、押上町に於ける在來道路を改修したる外、大部分は新設なり、第一百三號線は横十間川架設栗原橋西詰を起點として龜戸町方面に至る幅員十一米の街路なり。

##### 第三 區劃整理街路

區劃整理街路は幹線第六號京成橋間を二十二米、幹線第六號終點以東柳島橋間を十六米、南側地區界補助線第五號以東を十四米五に、何れも在來街路を存置又は改修したる外幅員三米、四米、六米、七米、八米にして、土地の狀況に應じ且幹線補助線との連絡に考慮を拂ひ新設、擴張又は改修を爲せり。

##### 第四 運河

地區の東端に在る横十間川は第二號改修線に屬し幅員を擴張して四十米とし、河底を浚渫して深度一米八とす、其の幅員擴張の爲め切取りたる面積千四百四十六坪三合にして、内宅地七百九十六坪二合八勺、公共用地六百五十坪二勺なり。



の新設街路なり、之に並行せる第百十號線、第百十一號線、第百十二號線は何れも其の幅員十一米にして、第百十一號線は在來道路を東側に擴張し、他の二線は新設なり、第百三號線は原庭町方面より平川橋を渡り地區の中部を東走して神明橋に至る幅員十一米の街路にして、押上町に於ける在來道路を改修したる外、大部分は新設なり、第百十三號線は横十間川架設栗原橋西詰を起點として龜戸町方面に至る幅員十一米の街路なり。

### 第三 區劃整理街路

區劃整理街路は幹線第六號京成橋間を二十二米、幹線第六號終點以東柳島橋間を十六米、南側地區界補助線第五號以東を十四米五に、何れも在來街路を存置又は改修したる外幅員三米、四米、六米、七米、八米にして、土地の状況に應じ且幹線補助線との連絡に考慮を拂ひ新設、擴張又は改修を爲せり。

### 第四 運 河

地區の東端に在る横十間川は第二號改修線に屬し幅員を擴張して四十米とし、河底を浚渫して深度一米八とす、其の幅員擴張の爲め切取りたる面積千四百四十六坪三合にして、内宅地七百九十六坪二合八勺、公共用地六百五十坪二勺なり。

### 第五 小公園

業平公園は押上町に新設し、西は八米區劃整理街路を隔て、東京市業平尋常小學校と相對し、北は補助線第百三號、東は補助線第百十一號、南は六米區劃整理街路に接し、其の面積千坪なり。

本公園は當初柳島公園として柳島元町に新設するの計畫なりしが、地元民の希望に依り之を押上町に変更すると共に改稱したり、其の經緯左の如し。

本公園に關しては當初の議定に基き位置豫定案を作成し、土地區劃整理委員會に提案したるに、委員協議會に於て新設公園は柳元小學校に隣接せざるの故を以て、大正十三年十月之が位置變更に關する意見書を當局に提出せり、之に依れば新設公園の位置を柳島元町に豫定せられたるも、柳元小學校敷地と相隔離し、小學校附屬公園とするの趣旨に反するのみならず、公園豫定地は將來樞要なる商業地帯となるべきが故に土地利用上大に不可なり、寧ろ之を業平小學校に最も接近せる押上町の一角に変更すべしと謂ふに在り、依て當局は之に對し慎重調査中なりし處、委員協議會に於ては別に中ノ郷業平町、押上町及柳島元町の委員より成る三町審議會を組織し同問題を考究したる結果、之を分割して二箇所を設置することとし、理事者提出の公園豫定地を八百二十坪となし、殘餘の百八十坪は押上町内天祖神社側に



換地し兒童遊園地と爲すべしと主張し、當局に對し再三陳情する所ありたるも、當局は之に對し公園敷地の分割には應ずること能はざる旨を回答せり。

叙上の如く公園位置問題紛糾せる際、柳島元町住民に於ては隣接せる第四十八地區柳島横川町と相呼應し、理事者提案の公園豫定地は柳元小學校附屬公園たると同時に、第四十八地區の柳島小學校も之を利用し得べく最も適當の位置なりと主張するに至りしを以て、整理委員協議會に於ては更に之に中ノ郷業平町及押上町委員より成る二町審議會を組織し討議の結果、最初の協議會主張の如く小公園を業平小學校に接近せる押上町に移すべしとの結論に達したるを以て、同會より當局に對し小公園の位置を押上町に變更せられ度旨陳情せり、依て當局は調査したるに柳元小學校に於ては隣地區の錦糸公園を利用するの便あるを以て、該整理委員協議會の希望を容れ、地區の中部たる押上町に於て業平小學校と隣接する個所に變更することに決し、之に關する變更案を大正十五年十一月二十六日整理委員會に提出し、即日之を決定し昭和三年十月五日特別都市計畫委員會の議決を経たり。

整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	備考
幹線	五	三〇	一、四二・八	七、二四・四	地區界
	六	三〇 <sup>米</sup>	五八・六	五、七六・九 <sup>坪</sup>	
	計	三〇	一、〇〇・三	一二、〇一・三	
	三六	三〇	三七・四	三六・〇	

補助線	番號	幅員	延長	面積	備考
補助線	一〇	二〇	四七・九	一、五八・五	
	一一	二〇	二八・七	一、五八・五	
	一二	二〇	四四・七	一、三四・七〇	
	一三	二〇	八六・八	三、一五・七	
	計	二〇	一五〇	一、九七・五	三、一四・九



第四十五地區 甲 整地

合	區劃整理線					補助線					
	計	一	二	三	四	計	一	二	三	四	五
計	三・〇	三・五	四・〇	六・〇	七・〇	八・〇	一四・五	一六・〇	二二・〇	三・〇	三・〇
二、九〇・壹	七、八〇・壹	一六六・〇五	三〇〇・八二	八〇二・三八	一、九八七・八九	四七〇・二五	三、一九五・四七	三九〇・三三	四七・五三	二、九七・五〇	四〇四・七一
三七、四七・六三	一七、一八・叁	一五〇・七〇	三五二・九三	九七〇・八八	三、六〇八・〇四	一、〇六四・二四	七、八六九・六三	六六・五〇	二、二〇二・〇九	一、五八八・五五	一、三四六・七〇
	舊道利用	舊道利用	舊道利用	舊道利用	舊道利用	舊道利用	地區界	舊道利用	舊道存置		

幹 線	區 分 番 號	幅 員	延 長	面 積	備 考
		三・〇	一、一四一・八一	七、一四〇・〇四	地區界
		三・〇	五五・三三	一、〇〇〇・九三	
		三・〇	三七・七四	三五・〇二	
		三・〇	五八・七六	五、七八・〇九	



第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年六月一日土地區劃整理委員會に附議せり、然るに偶々京成電氣軌道延長問題起りたるが爲一時之が審議を中止したりしも、該軌道の延長は許可せられざるに至りしを以て、整理委員會は再び換地位置の審議を繼續し、同年十月二十四日より翌年十一月二十六日に至る間四回に修正決議し、其の後數回一部變更案を提出し、昭和四年十一月二十八日議了せり、換地面積決定に關する件は大正十五年二月九日より同年十一月二十六日迄五回に同委員會に附議し、同十五年六月二十八日より昭和四年十一月二十八日迄三回に亙り修正決議せり。

換地設計に因る宅地面積十一萬九百十五坪三合五勺、公共用地面積四萬七千七百二十三坪二合六勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は、宅地六割九分九厘、公共用地三割一厘なり、宅地の内借地面積は五萬五百六十四坪四合にして、其の宅地面積に對する割合は、四割五分六厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積二萬六千二百十六坪六合、公共用地が宅地となりたる面積六千三百三十四坪八合三勺、其の差引潰地面積一萬九千八百八十一坪七合七勺にして、減歩率一割五分二厘なり。

既に述べたる整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積調

區分	總面積		宅地面積 に對する割合	公共用地 面積の總面積に對する割合	潰地面積	潰地面積の整理前宅地面積に對する割合	潰地面積より整理前宅地面積を控除したる面積
	宅地面積	内借地面積					
區分	宅地面積	内借地面積	に對する割合	公共用地面積の總面積に對する割合	潰地面積	潰地面積の整理前宅地面積に對する割合	潰地面積より整理前宅地面積を控除したる面積

整理前	整理後
一三〇、七九・三 <sup>坪</sup>	一五八、六六・六 <sup>坪</sup>
〇・八四	〇・四五
二七、八四・四 <sup>坪</sup>	四七、七三・六
〇・二七	〇・三〇
一九、八八・七 <sup>坪</sup>	〇・一五〇四六
六、八〇・〇 <sup>坪</sup>	〇・一五〇四六
五七、五八・三 <sup>元</sup>	五〇、五四・四〇
〇・四〇	〇・四九
一一〇、九五・三 <sup>五</sup>	五〇、五四・四〇
〇・六九	〇・四九
五〇、五四・四〇	〇・四九



厘なり。

既に述べたる整理前後に於ける土地の状況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積調

區分	總面積		公共用地面積	公共用地面積の總面積に對する割合	潰地面積	潰地面積の整理前宅地面積に對する割合	潰地面積より宅地面積を控除し、面積を補償する面積
	宅地面積	内借地面積					

整理後	整理前	
	五〇、五四・四〇	一五八、六六・六一
〇・四五六	二〇、九二・三五	五、五二・三元
四七、七三・二六	〇・六九九	〇・四四〇
〇・三〇一	二七、八四・四九	〇・二七六
	一九、八二・七七	
	〇・二五・〇四六	
	六、八〇・〇六	

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

整理後	整理前	區分	
		民有地	國有地
九〇、五二・五一	一〇二、九七・九九	一〇、八四・八七	一〇、八四・八七
		一六、九七・八九	
		六、九二・二六	六、九二・二六
		三、九四・九五	
			一一〇、七九・三三
			一一〇、九二・三五

整理前公共用地面積内譯

國有	街路			河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
	公有	民有	小計						
七、七七・五九	五、三九・六〇	一、八五・九二	二四、九八・二二	七、八六・八七					一一八、〇二・八八
									二、三八・六三
									三七、八四・四九

第四十五地區 甲 整地



整理後公共用地面積内譯

街		路		河川運河		公園		共同物揚場		堤塘		溝渠		合計	
幹線	補助線	區劃整理線	小計	在來	新設	在來	新設	在來	新設	在來	新設	在來	新設	在來	新設
七、一四〇・四 <sup>坪</sup>	一三、一四九・三 <sup>坪</sup>	二七、二八・五 <sup>坪</sup>	四七、七・三 <sup>坪</sup>	八、七六・四 <sup>坪</sup>	—	—	一、〇〇〇・〇 <sup>坪</sup>	—	三六・四 <sup>坪</sup>	一六・三 <sup>坪</sup>	—	—	—	四七、七・三 <sup>坪</sup>	三六

宅地が公共用地となりたる面積

街		路		河川運河		公園		共同物揚場		堤塘		溝渠		合計	
幹線	補助線	區劃整理線	小計	在來	新設	在來	新設	在來	新設	在來	新設	在來	新設	在來	新設
二、八五・二 <sup>坪</sup>	九、八七・六 <sup>坪</sup>	二、三七・五 <sup>坪</sup>	一三、〇四・三 <sup>坪</sup>	一、〇八・二 <sup>坪</sup>	—	—	一、〇〇〇・〇 <sup>坪</sup>	—	—	—	—	—	—	一三、〇四・三 <sup>坪</sup>	二六、二六・〇 <sup>坪</sup>

公共用地が宅地となりたる面積

街		路		河川運河		公園		共同物揚場		堤塘		溝渠		合計	
國有	公有	民有	小計	在來	新設	在來	新設	在來	新設	在來	新設	在來	新設	在來	新設
二、五九・六 <sup>坪</sup>	一〇・二 <sup>坪</sup>	一、二七・四 <sup>坪</sup>	三、八六・三 <sup>坪</sup>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三、八六・三 <sup>坪</sup>	六、三三・八 <sup>坪</sup>

備考 各公共用地の整理前面積に宅地が公共用地となりたる面積を加へ、公共用地が宅地となりたる面積を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

本地區の平均減歩率は一割五分二厘にして換地設計上支障ありたるを以て、潰地充當用として宅地七千百五十九坪五合二勺を買収せり、之が爲實際潰地面積は一萬二千七百二十二坪五合二勺に減少し平均

減歩率一割三厘に低下したり、然るに猶ブロック間に於ける減歩區々に互りたるを以て、之が調節の爲ブロック間に宅地の移出入を行ひ換地の設計を了せり。







第二節 整理後土地の評價

整理後路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は單獨に諮問せず、昭和四年十一月二十八日土地各筆清算に關する件を土地區劃整理委員會に附議するに當り之が内容を爲すものなるを説明し、各筆清算案に付て審議し、同年十二月二十四日決議せり。

本地區整理後の土地評價は整理前と同じく甲、乙及丙の三率を適用したり、其の路線價指數は土地の整理狀況に依り四百個乃至千五百五十個と評定せり、即ち幹線第六號中業平橋より中ノ郷業平町七十四番地先に至る間及同幹線中補助線第百十一號より同第五號に至る間を最高千五百五十個、押上町三米區劃整理路線を最低四百個としたり、而して路線價指數に基き算出しこれに地盤の高低に依る達觀を加へたる各筆平均坪當指數の最高は千四百十六個、中ノ郷業平町二十九番にして、最低は三百四十五個、柳島元町六十五番なり。

換地全筆の總指數は五千三百十九萬三千百十三個にして、之を宅地總面積十一萬九百十五坪三合五勺にて除したる平均坪當指數は四百七十八個なり。

借地權利價割合は整理前と同じく國有寺地を九割、一般宅地を二割五分乃至三割と定めたり。

以上記述せる整理前後に於ける最高最低の路線價指數並各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區 分	整 理 前		整 理 後	
	指 數	價 格	指 數	價 格

路 線 價	最 高		最 低	
	指 數	價 格	指 數	價 格
路 線 價	1,000個	250.00 <sup>円</sup>	1,150個	290.00 <sup>円</sup>
各 筆 坪 當	1,333	366.56	1,416	368.18
各 筆 坪 當	280	51.80	345	89.70
宅 地 總 平 均 坪 當	421	166.66	478	242.66



以上記述せる整理前後に於ける最高最低の路線價指數並各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格

路線價	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
最高	1,000	1,000	1,150	1,920
最低	400	1,040	400	1,040
平均	280	366	345	388
總平均	421	1,066	478	2,426

備考 指數單價は二十六錢なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有權	4,160	11,560	4,101	11,011
借地權	6,760	1,757	6,905	1,875
合計	10,920	13,317	11,006	12,886

備考 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。

二 整理前の總指數潰地充當用買收地の指數を包含するものは五三、七二六、一九二個なり。



## 第五章 換地處分

### 第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和四年十一月二十八日土地區劃整理委員會に附議し、同年十二月二十四日原案の通可決し、換地處分に關する件並補償金の配當に關する件は同五年一月二十四日同委員會に附議し、何れも即決したるを以て、同日内務大臣に本地區の土地區劃整理設計、換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、同月二十八日認可、同日内務省告示第十七號を以て換地處分認可の告示あり、依て即日東京市告示第三十二號を以て右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領權利者は一月二十八日より二月三日迄に東京市復興事業局第四出張所に申告書を提出すべき旨を告示せり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前六百二十八筆、整理後五百十五筆、借地整理前九百七十件、整理後九百七十八件なり、土地權利者は所有權者整理前後共二百八人、借地權者整理前後共七百八人なり。

土地各筆清算に際しては整理前要素清算土地評定權利指數五千百十萬五百二十二個を以て、換地の評定權利指數五千三百十九萬三千百十三個を除したる比率一〇四〇九五〇五を、整理前の各筆權利指數に乘じて整理前の比例權利指數を算出せり。

換地處分の結果左の如し。

#### 一 清算を爲したるもの

換地 說明 書別	從 前 の 土 地		換 地		計 算 上 の 清 算		清 算	
	面 積	比 例 權 利 指 數	面 積	評 定 權 利 指 數	徵 收	交 付	徵 收	交 付
甲	所有地 107,993.00 <sup>坪</sup>	借地 4,572.77 <sup>坪</sup>	所有地 110,953.55 <sup>坪</sup>	借地 3,955.53 <sup>坪</sup>	57,756.83 <sup>円</sup>	491,568.48 <sup>円</sup>	344,063.44 <sup>円</sup>	321,595.56 <sup>円</sup>
	權利價格 111,907,371.10 <sup>円</sup>	權利價格 46,807,110.00 <sup>円</sup>	權利價格 111,830,396.00 <sup>円</sup>	權利價格 46,857,746.00 <sup>円</sup>	69,571.56 <sup>円</sup>			
	六三三八八三		六三五三六七					



土地各筆清算に際しては整理前所要清算土地評定権利指数五千百十萬五百二十二個を以て、換地の評定権利指数五千三百十九萬三千百十三個を除したる比率一〇四〇九五〇五を、整理前の各筆権利指数に乘じて整理前の比例権利指数を算出せり。

換地處分の結果左の如し。

一 清算を爲したるもの

換地 説明 書別	従前の土地		換地		計算上の清算	清算
	面積	権利価格	面積	権利価格		
甲	107,909.30 <sup>坪</sup>	4,577,277	110,915.35 <sup>坪</sup>	4,657,746 <sup>円</sup>	徴収金と相殺し得るもの 4,915,648 <sup>円</sup>	徴収 3,341,064 <sup>円</sup>
乙	—	5,298,663	—	4,661,263	供託を要するもの 6,957,156 <sup>円</sup>	交付 3,158,958 <sup>円</sup>
計	107,909.30	5,755,589	110,915.35	5,558,515	—	—
		117,703,970 <sup>円</sup>		117,703,970 <sup>円</sup>		
		5,298,663		5,298,663		
		1,659,812.8		1,659,812.8		
		6,388,893		6,388,893		
		5,298,663		5,298,663		
		117,703,970		117,703,970		
		5,298,663		5,298,663		
		1,659,812.8		1,659,812.8		
		6,388,893		6,388,893		
		5,298,663		5,298,663		
		117,703,970		117,703,970		
		5,298,663		5,298,663		
		1,659,812.8		1,659,812.8		
		6,388,893		6,388,893		
		5,298,663		5,298,663		
		117,703,970		117,703,970		

備考 一 換地説明書別欄、甲は所有権と所有権者にして借地権を有するもの、借地権との清算を、乙は借地権のみを清算を掲ぐ。

二 従前の所有地面積は臺帳面積にして、借地面積は申告面積なり。

三 甲借地面積は乙より移記したるものにして、乙借地面積は甲に移記したるものを除きたる面積なり。

二 特別處分を爲したるもの

一 換地を交付せず清算金を交付したるもの

権利者	區町丁目	地番	地目	権利別	面積	指数	價格	摘要
河崎とめ	本所區 押上町	一七〇ノ(三)	宅地	賃借權	四・九〇 <sup>坪</sup>	一、二五〇 <sup>円</sup>	三五・〇〇 <sup>円</sup>	協定に依る

第四十五地區 甲 整地



第四十五地區 甲 整地

澁木次郎作	同	佐久間竹松	小池安太郎	藤瀬鶴次郎	八田源藏	三賀榮次郎	西峯八十一	豐田初之助	村山乙助	内藤美平	仲川孫三郎	仲山考二郎
本所區 押上町	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二〇二ノ(12)ノ一	二〇二ノ(12)ノ一	二〇二ノ(18)	二〇二ノ(30)	二〇二ノ(17)	二〇二ノ(19)	二〇二ノ(27)	二〇二ノ(28)	二〇二ノ(28)	二〇二ノ(28)	二〇二ノ(33)	二〇二ノ(4)	二〇二ノ(4)
宅地	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
賃借權	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二〇〇〇	八・五三	一一・三〇	七・一〇	四・四四	五・四〇	六・四七	三・〇〇	三・六〇	二・五二	四・三三	六・〇〇	四・二三
一、〇八三	一、一四五	一、〇七六	六・五五	三・九五	五・〇九	六・〇九	二・七九	三、二八〇	一、一五二	三・九四	七・五四	四・四七
二六・六六 協定に依る	二五九・七〇 同	二七九・六六 同	一七〇・三〇 同	一〇二・七〇 同	一三三・三三 同	一八八・三三 同	七二・五四 同	八五・八〇 同	三五・六六 同	一〇二・四四 同	一六・〇四 同	一六・三三 同

勝倉千津子	飯島平次郎	石森友伯	石井常吉
同	同	同	同
二〇二ノ(31)	二〇二ノ(20)	六ノ(2)	四〇(68)
同	同	同	同
同	同	同	同
一七・五〇	四・〇〇	一五・六九	四・〇〇
一、五七六	三・五三	一、五七〇	四、〇五四
九四・六六 同	九・七六 同	四〇八・二〇 同	一、〇五一・七〇 本人の希望に依る



村山乙助	同	・ 八(3)	同	同	一三・五	一、一五	三五・六	同
内藤美平	同	二〇ノ二(33)	同	同	四・三	三九四	一〇二・四	同
仲川孫三郎	同	二〇ノ四(1)	同	同	六・〇	七五四	一九・〇	同
仲山考二郎	同	二〇ノ四(4)	同	同	四・三	四四七	二六・三	同

勝倉千津子	同	二〇ノ一(31)	同	同	一七・五〇	一、五七	九四・七	同
飯島平次郎	同	二〇ノ一(20)	同	同	四・〇	三五	九・七	同
石森友伯	同	共ノ二(2)	同	同	一五・六九	一、五七〇	四八・二〇	同
石井常吉	同ノ郷業平町	四〇(68)	同	同	四・〇〇	四、〇四	一、〇五・七〇	本人の希望に依る
田中柴郎	同	二〇ノ二(1)ノ二	同	同	二九・五〇	三、三六	八七・六	協定による
梅田本一	同	四〇(37)	同	同	一〇・〇	一、〇七四	二七九・四	本人の希望に依る
同人	同	二九(5)	同	同	三・〇〇	三、九六	一、〇五・五	同
岡部由三郎	同	二九(3)	同	同	五・〇〇	五五二	一四三・五	協定に依る
大日本製水株式会社	同	二九(4)	同	同	一五・五	一、六七	四三・五	同
立岩新之助	同	二九(2)	同	同	八・〇	八七	二六・七	同
合計					三〇一・七	三、二九〇	八、三三・四	

二 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

東京市所有地道路九十五筆五千二百八十五坪八合四勺、河川三十八筆二千二百六十三坪五合八

第四十五地画 甲 整地



勺、内務省所有地道路十四筆四百二十六坪、合計七千九百七十五坪四合二勺。

潰地充當用買收地東京市所有地十三筆三千二百三坪一合三勺、内務省所有地十三筆三千九百五十九坪八合、合計七千六百六十二坪九合三勺。

三 所有權以外の權利又は處分の制限の指定を爲したるもの

一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權三件、地上權假登記二件、抵當權百七十七件、抵當權代位附記假登記十八件、賃借權假登記十九件あり。

二 處分の制限の指定を爲したるもの所有權假登記五件、差押二件、競賣申立一件あり。

三 未登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの賃借權九百五十七件あり。

備考 右の外係争中の賃借權二十三件、借地法第九條該當地一件あり。

第二節 清算金

第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和五年一月二十八日内務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は三十七萬二千百三十九圓四錢にして人員四百五十人なり、又土地補償金は同年二月十三日補償審査會に於て三萬八千四百二十八圓二十六錢人員九百三人と決定せられ同月十七日其の通知を受けたり、依て同月二十日左記の通補償金を以て徴收清算金に充當處分を爲したり。

徴收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徴收清算金		充當後交付補償金	
金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員
三七、二三〇・四 <sup>円</sup>	四五〇	三六、四八・六 <sup>円</sup>	九〇三	一四、〇四八・〇六 <sup>円</sup>	四四七	三六、〇九〇・九八 <sup>円</sup>	四三七	一四、三八〇・二〇 <sup>円</sup>	四九七

第二 換地處分に關する通知

前項充當處分を爲したる後換地説明書及補償金清算金臺帳に依り換地處分に關する通知書を作成し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

第三 清算金の徴收

本地區に於ける徴收清算金總額は三十七萬二千百三十九圓四錢なりしが、内十四萬四十八圓六錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徴收すべき清算金は、差引三十五萬八千九



萬八千四百二十八圓二十六錢人員九百三人と決定せられ同月十七日其の通知を受けたり、依て同月二十日左記の通補償金を以て徴收清算金に充當處分を爲したり。

徴收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徴收清算金		充當後交付補償金	
金	人員	金	人員	金	人員	金	人員	金	人員
三七一、三三〇・四	四五〇	三六、四八・六	九〇三	一四、〇八・六	四七	三五八、〇九・九	四三七	一四、三八〇・二〇	四七九

## 第二 換地處分に關する通知

前項充當處分を爲したる後換地説明書及補償金清算金臺帳に依り換地處分に關する通知書を作成し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

## 第三 清算金の徴收

本地區に於ける徴收清算金總額は三十七萬二千百三十九圓四錢なりしが、内十四萬四十八圓六錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徴收すべき清算金は、差引三十五萬八千九十圓九十八錢にして人員四百三十七人なり。

右徴收人員四百三十七人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの二百二十一人も、内官公署分四件を除き差引二百七十七人に對し分納申請期限を昭和五年三月十日とし、同年二月二十日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの百八人にして資格者總數に對し僅に四割九分に過ぎざりしを以て、同年三月二十日未提出者百九人に對し更に同月三十一日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に提出したる者三十八人ありて結局申請者合計百四十六人となり、資格者總數に對し六割七分強となりたり。

依て右申請書を審査の上、同年五月八日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。本地區の清算金徴收事務は本所區役所に於て取扱ふものにして、昭和五年三月より之が徴收を開始せり。

## 第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金は總額三十七萬二千百三十九圓四錢にして、本所區役所に於て昭和五年三月七日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額三十六萬九十二圓九十六錢なり。







摘要		員數
整理前宅地總面積	一三〇、七九七坪一二	
整理後宅地總面積	一一〇、九一五坪三五	
潰地總面積	一九、八八一坪七七	

(其の二)

摘要		員數
整理前宅地總面積に對する潰地面積の割合	〇・一五二〇〇四六	
整理前宅地の一割に相當する面積	一三、〇七九坪七一	
補償總面積	六、八〇二坪〇六	
整理前宅地總面積	五三、七二六、一九二個	
同上平均坪當指數	四一一個	
指數	〇圓二六	
整理前宅地坪當價格	一〇六圓八六	
補償總指數	一一、七九五、六四六個	
補償總額	七二六、八六七圓九六	

(其の二)

摘要		員數
特別都市計畫法施行令第二十九條該當中指數相當額配當のもの	七、一五九坪五二	
補償總額	一一、六二五、六七〇個	
補償指數	一一、六二五、六七〇個	
補償金額	六八二、六七四圓二〇	
差引整理前宅地總指數	五一、一〇〇、五二二個	
差引補償總指數	一六九、九七六個	

第四十五地區 甲 整地



補償金配當率 (整理前指數千個當)	三〇個〇六三三七
特別都市計畫法施行令	二〇、七四七坪八四
第二十九條該當中按分	三〇二坪四五
率に依り配當のもの	六、六六八、八〇七個
差引要交付補償金	二、八二六、六五九個
内寺院の一割相當請求權拋棄額	二五、七六六圓三四
實際補償金要交付額	三八、四三二圓四二
	四圓一六
	三八、四二八圓二六

第二 補償金國市負擔區分

本地區に於ける補償金國市負擔區分に關する計算は左記調査表の如く、國に於て二萬二千三圓八十錢 (人員八百四人)市に於て一萬六千四百二十四圓四十六錢(人員九十九人)を負擔するものなり。

國市負擔區分調査表

(其の一)

面積	補償		面積	國負擔		面積	市負擔		備
	指數	金額		指數	金額		指數	金額	
									整理前總面積
									平均坪
									國又は公
									有地指數

六、八〇一・〇六 <sup>坪</sup>	二、七九五、六四六 <sup>個</sup>	三、九四三・四〇 <sup>坪</sup>	一、六二〇、七七 <sup>個</sup>	二、八五六・六六 <sup>坪</sup>	一、一七四、九〇九 <sup>個</sup>	三〇五、四七六・三四 <sup>坪</sup>	一三〇、七七・三 <sup>坪</sup>	四二 <sup>個</sup>	九、二六七、四七七 <sup>個</sup>
七六、八六七・六六 <sup>坪</sup>			四二、三九一・六二 <sup>坪</sup>			五、七六、一九二 <sup>坪</sup>			

(其の二)

(△印は減を示す)







總計	市負擔				補助線	補助線	計
	計	小公園	補助線 業內電氣 用地	補助線			
六、八〇三・〇六	二、八五六・六六	一、〇〇〇・〇〇	一、〇五二・八三	八〇五・八三	三、九四三・〇〇	一、六〇〇・七七	一、六〇〇・七七
七六、八七・九六	二、七五、六四六	一〇六、八〇・〇〇	一二、五五・五六	八六、二〇・九六	四三、三九・三三	三、三三九・九六	三、三三九・九六
五、七六・四四	三、一五九	八四七・〇八	八九・八〇	六八、五〇	三、三三九・九六	一、五三三、四四五	一、五三三、四四五
六六、六四四・三〇	二、六三三、六三六	七四、六〇四・四〇	一	二二、〇六・一〇	三九六、〇三・七〇	一、五三三、四四五	一、五三三、四四五
六六、四三三・四四	二、六四七、八九九	七五、四五一・四八	八九・八〇	二二、七〇八・六〇	三九六、〇三・七〇	一、五三六、〇九一	一、五三六、〇九一
三八八、四三八・二六	一四七、八〇一	三二、四〇八・五二	一一、六三三・五六	二六、五九七・六四	三、〇〇三・八〇	八四、六九〇	八四、六九〇

第三 各権利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金總額は三萬八千四百二十八圓二十六錢なりしが、内一萬四千四十八圓六錢を徴收清算金に充當したる結果、各権利者に直接交付すべき補償金は二萬四千三百八十圓二十錢(人員四百七十九人)にして、之が國市負擔區分に依る内譯左表の如し。

區分	補償金額		充當額		直接交付額	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額
補償金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額



計	二、八五八・六六	三〇五、四七六・四四	二、四二二・三八	二八六、六三〇・〇五	二八九、〇五二・八八	一六、四二四・四六
總計	六、八〇一・〇六	七三六、八七六・六六	五、七七一・四四	六六二、六四〇・二〇	六六八、四三三・四四	三六八、四八二・六六
計	二、七五五・四六	三三、二五九	二、六三三、六七五	二、六四七、八二九	四七、八〇一	

### 第三 各権利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金總額は三萬八千四百二十八圓二十六錢なりしが、内一萬四千四十八圓六錢を徴收清算金に充當したる結果、各権利者に直接交付すべき補償金は二萬四千三百八十圓二十錢(人員四百七十九人)にして、之が國市負擔區分に依る内譯左表の如し。

區分	補償金決定額		充當額		直接交付額	
	補償金額	人員	補償金額	人員	補償金額	人員
國負擔	一三、〇〇三・八〇 <sup>円</sup>	八〇四	九、九八八・四三 <sup>円</sup>	三六三	一三、〇二五・三六 <sup>円</sup>	四二七
市負擔	一六、四四四・四六	九九	四、〇五九・六四	六四	一三、三三四・八二	三三
計	三、四三六・二六	九〇三	一四、〇四八・〇六	四二七	二六、三六〇・一八	四六〇

### 第四 補償金の交付

本地區に於ける市負擔補償金總額一萬六千四百二十四圓四十六錢中、徴收清算金に充當したる金額四千五百九十九圓六十四錢は、市會計規程に基き振替手續に依り昭和五年四月十六日支出し、直接交付額一萬二千三百六十四圓八十二錢は本所區役所に於て同年三月六日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額一萬二千三百三十二圓六錢にして、交付済額合計一萬六千三百九十一圓七十錢なり。

國負擔補償金總額二萬二千三圓八十錢中、徴收清算金に充當したる金額九千九百八十八圓四十二錢は昭和五年三月三十一日本所區役所に納付し、直接交付額一萬二千五百三十八圓三十八錢は同月之が支拂を開始し、同六年三月迄に交付せし金額一萬九千九百九十四圓五十八錢にして、交付済額合計二萬九千九百八十三圓なり。